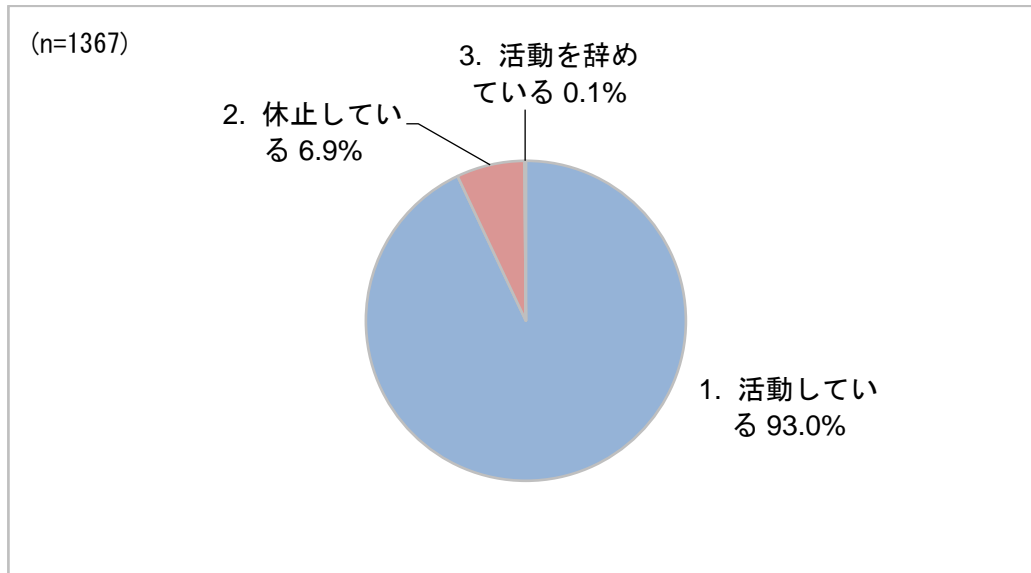


# 第1回全国子ども食堂実態調査集計結果

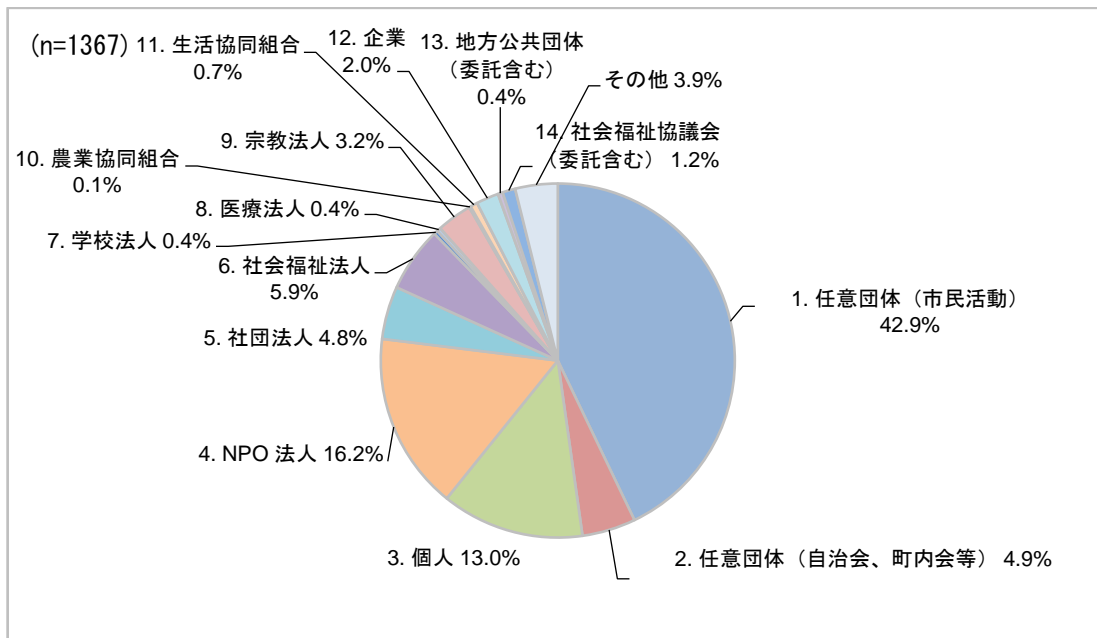
2022年1月31日

## 【問1】回答時点での活動状況についてお答えください。(ひとつに〇)



回答時点での活動状況については、活動しているが93.0%と9割以上の団体がなんらかの活動を実施している結果となった。

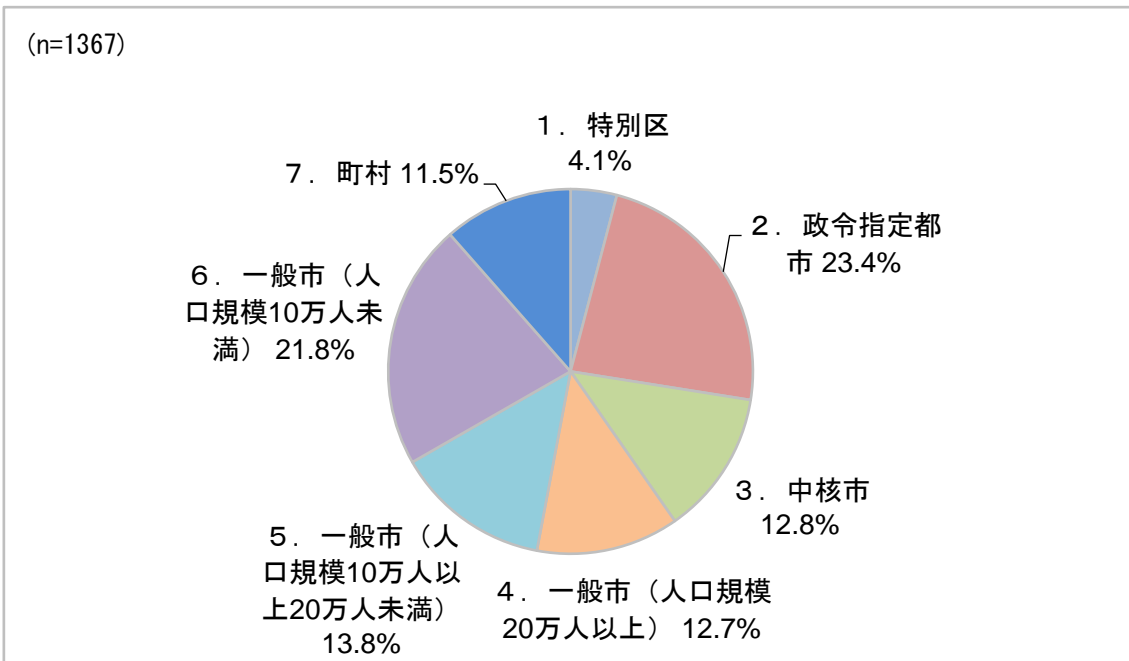
## 【問2】運営主体についてお答えください。(ひとつに〇)



運営主体については、任意団体 (市民活動) が最多で42.9% (n=586)、次いでNPO 法人が16.2% (n=221)、個人が13.0% (n=178) という結果となった。

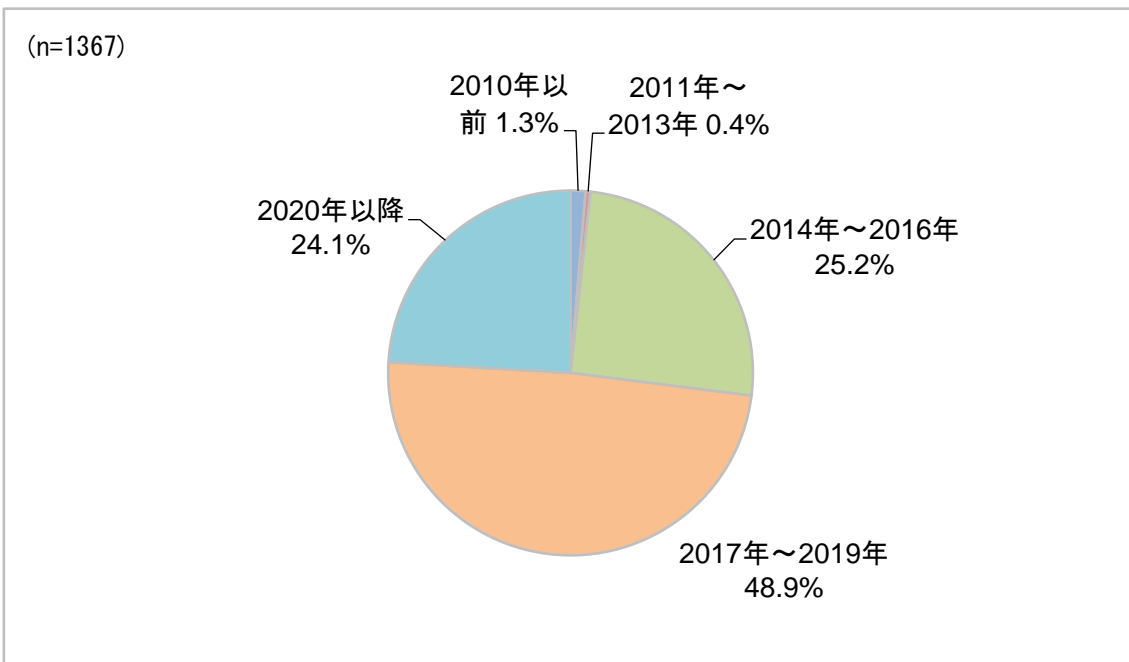
その他としては、「公益財団法人」や「商店街振興組合」などがあげられた。

**【問 3】子ども食堂のある自治体についてお答えください。（ひとつに〇）**



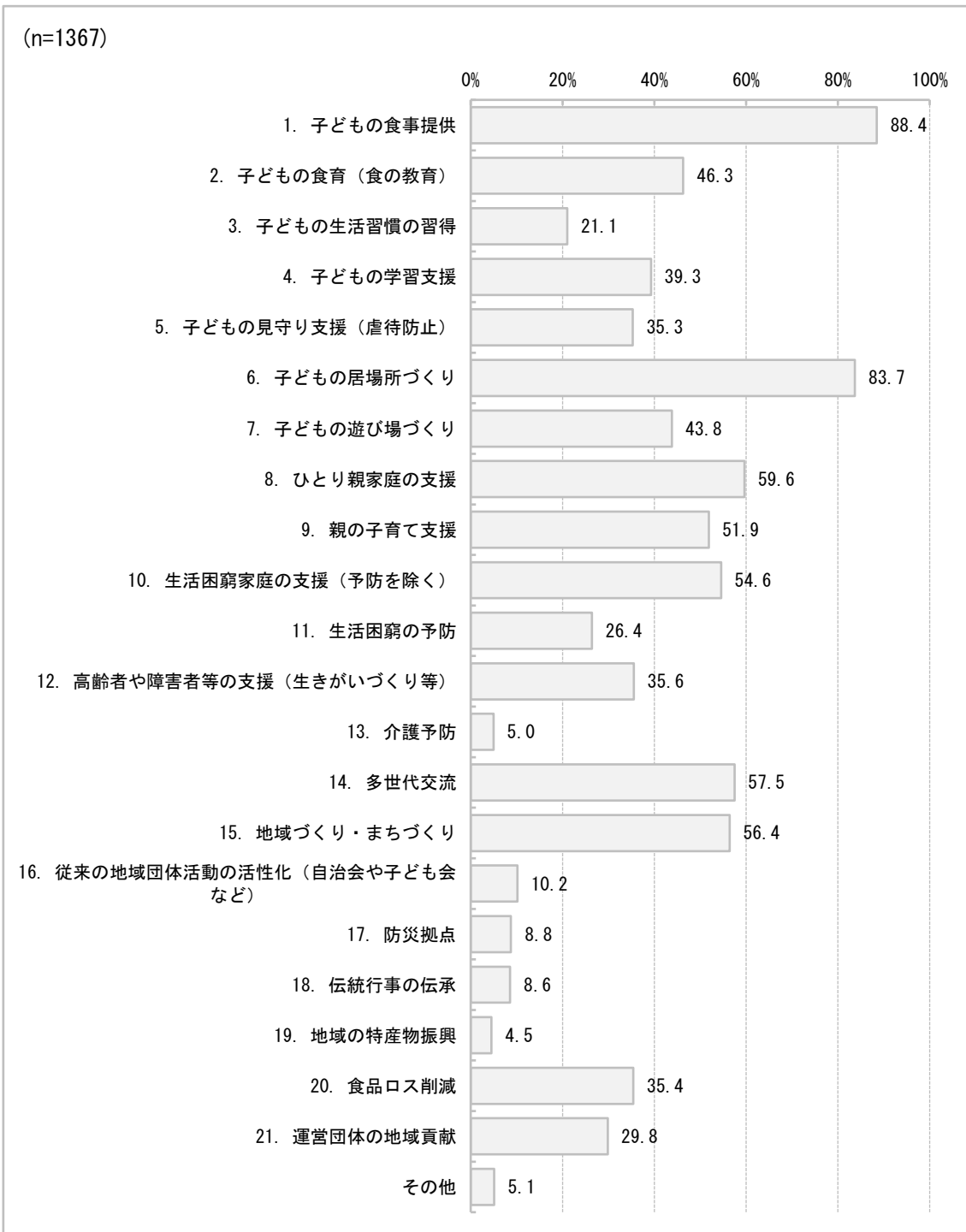
子ども食堂のある自治体については、政令指定都市が最多で 23.4%（n=320）、次いで一般市（人口規模 10 万人未満）が 21.8%（n=298）、一般市（人口規模 10 万人以上 20 万人未満）が 13.8%（n=188）という結果となった。

**【問 4】子ども食堂を開始した時期（西暦）についてお答えください。**



子ども食堂を開始した時期については、2017～2019 年が最多で約半分の 48.9%(n=669)、次いで、2014～2016 年が 25.2%(n=345)、2020 年以降が 24.1%(n=329)という結果となった。

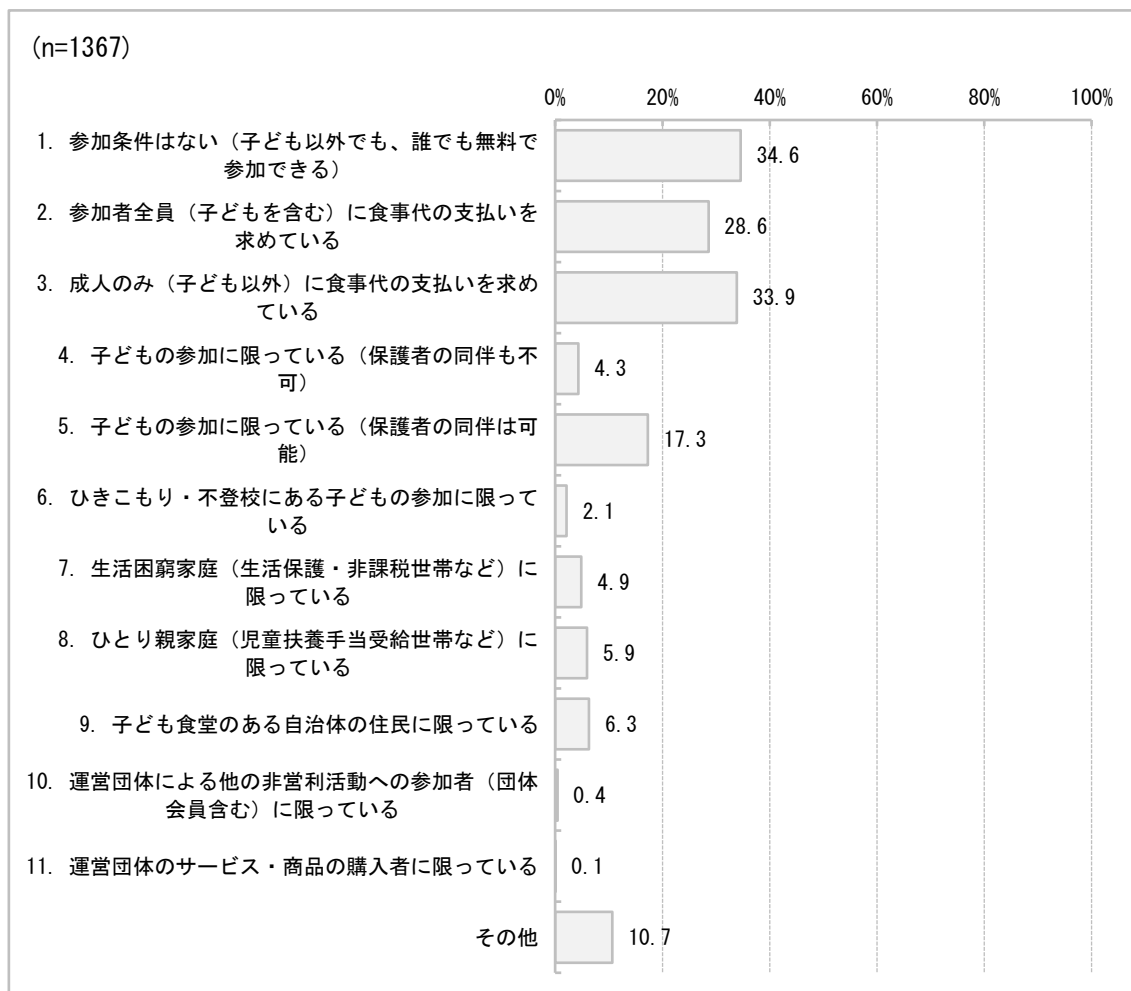
**【問 5】あなたが運営するこども食堂の主な目的についてお答えください。（該当すべて○）**



運営するこども食堂の主な目的について、「子どもの食事提供」が最多で 88.4%（n=1209）、次いで「子どもの居場所づくり」83.7%（n=1144）と上位 2 つの項目が 80%以上を占め、次点は「ひとり親家庭の支援」59.6%（n=815）という結果となった。

その他として「子どもの生きる力、外国にルーツにある子どもたちとの共生」や「商店街の活性」、「子どもも大人も今も将来も孤独を防ぐこと」などがあげられた。

【問 6】こども食堂への参加条件についてお答えください。（該当すべてに○）※運営スタッフの参加は除きます。※参加がない場合は「0」と記入してください。



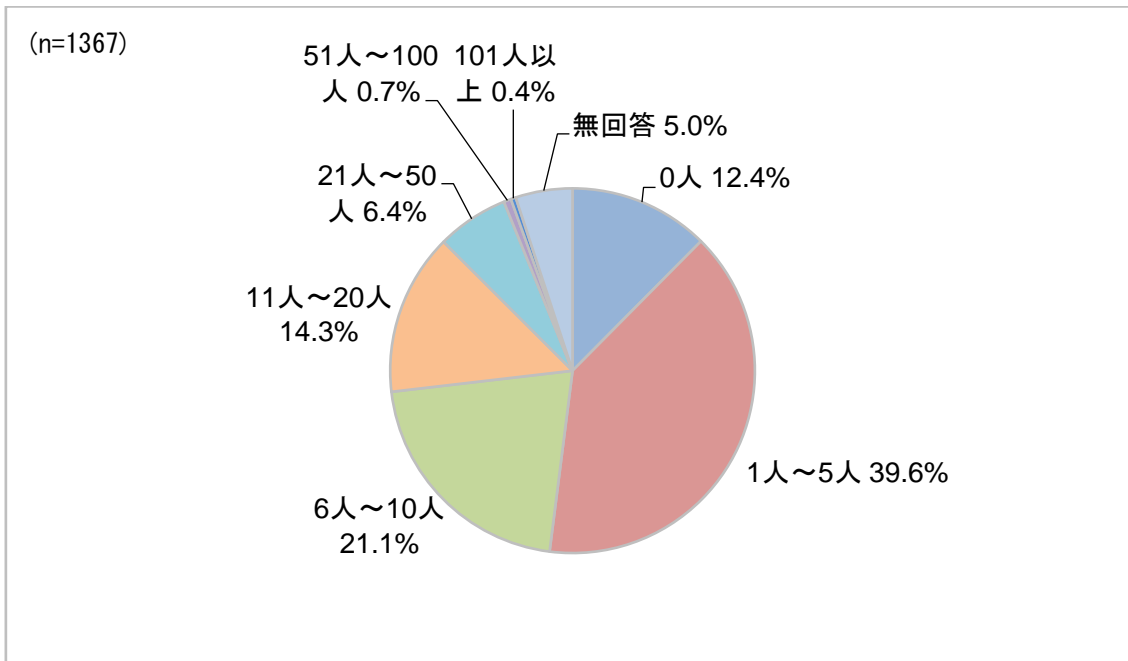
こども食堂の参加条件について、「参加条件はない（子ども以外でも、誰でも無料で参加できる）」が34.6%と最多（n=473）で、次いで「成人のみ（子ども以外）に食事代の支払いを求めている」が33.9%（n=463）、「参加者全員（子どもを含む）に食事代の支払いを求めている」28.6%（n=391）という結果となった。

その他としては「事情に応じて無料にしている」「困窮者の成人も無料にしている」などがあげられた。

【問 7】こども食堂の開催 1 回当たりの参加人数（平均）についてお答えください。

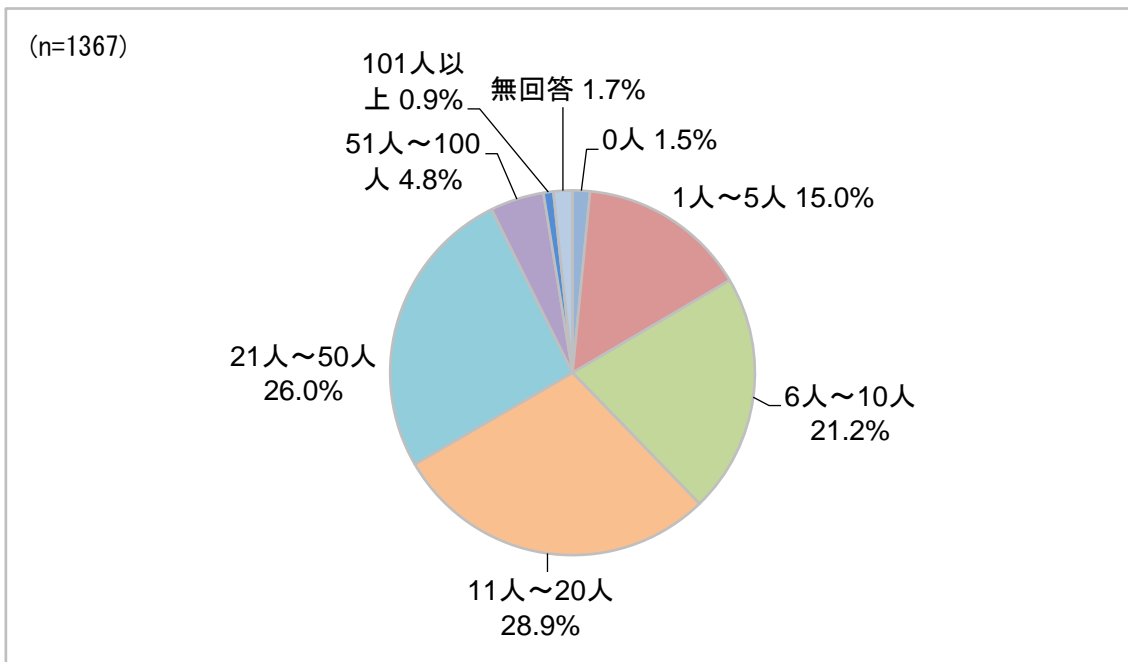
※運営スタッフは除きます。※参加がない場合は「0」と記入してください。

<未就学児>



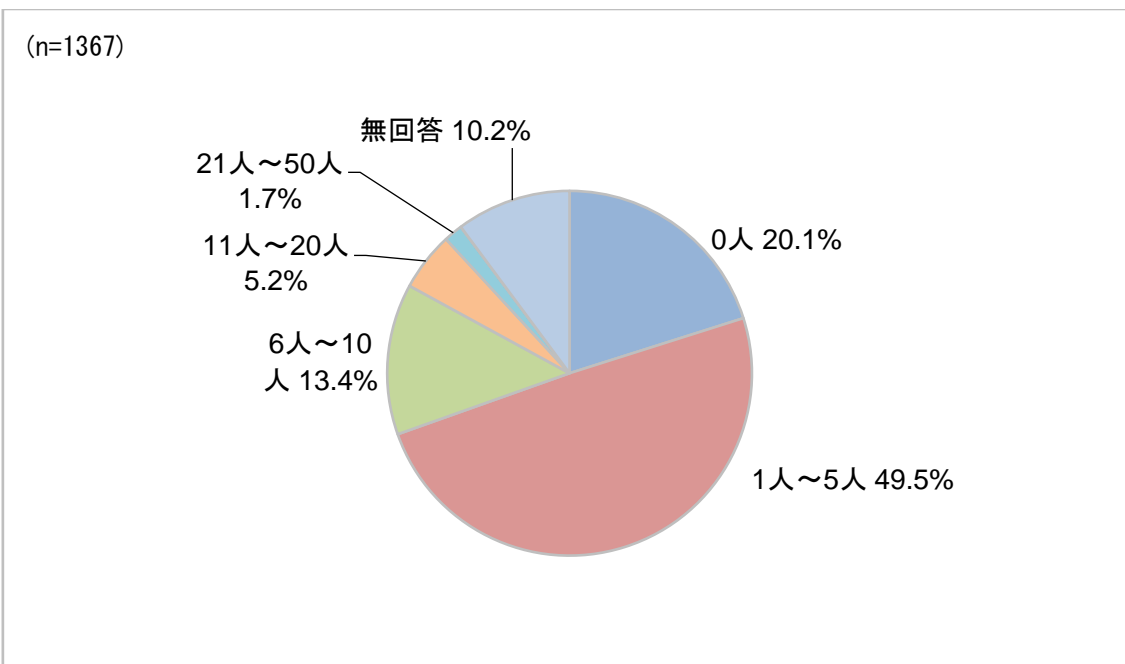
未就学児のこども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「1～5人」が 39.6%（n=541）、「6-10人」が 21.1%（n=289）と 1～10人で約 6 割以上を占めている。

<小学生>



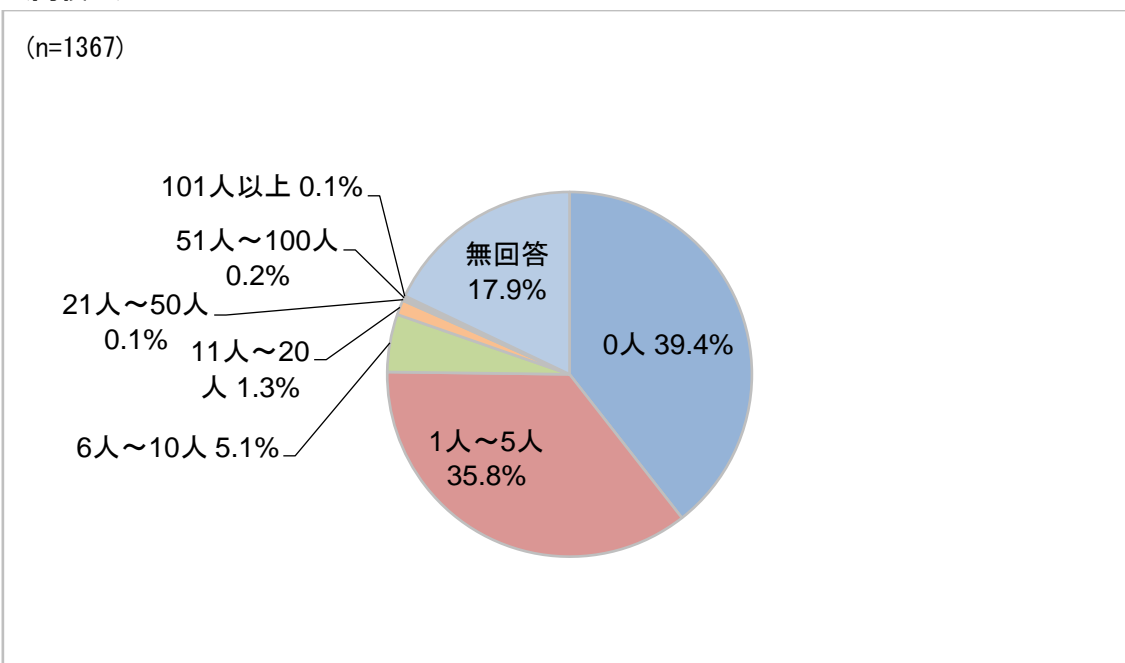
小学生のこども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「11～20人」が最多の 28.9%（n=395）、「21-50人」が 26.0%（n=356）と 11人以上の参加が過半数以上を占めている。

### <中学生>



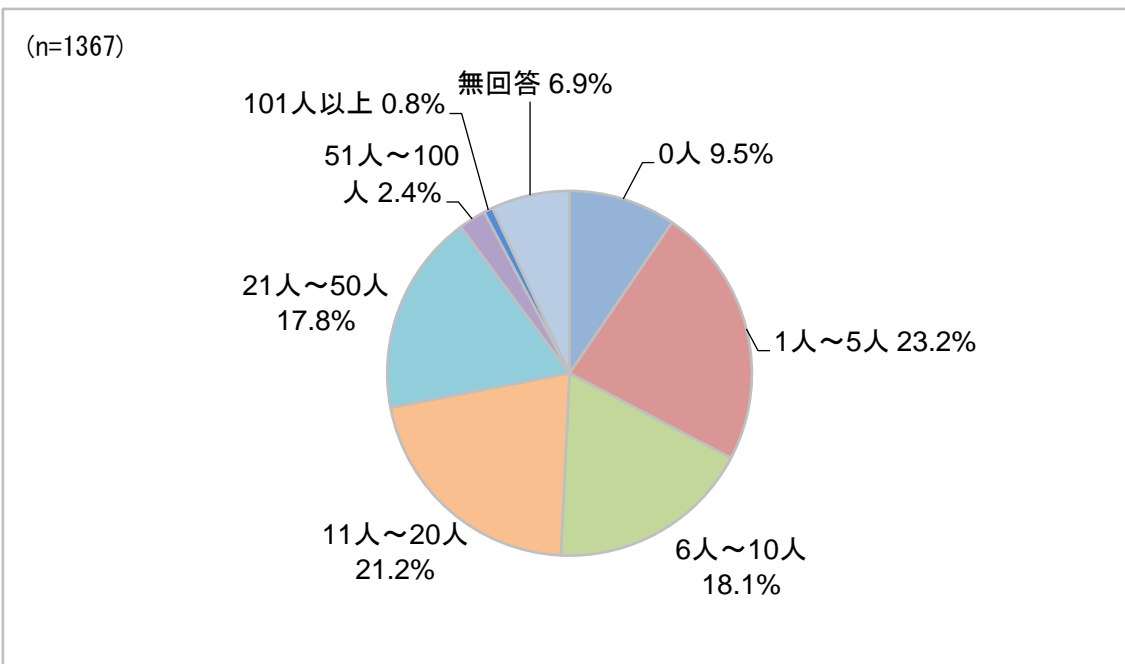
中学生の子ども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「1～5 人」が最多の 49.5%（n=676）、次いで「0 人」が 20.1%（n=275）と 0～5 人の参加が約 7 割を占めている。

### <高校生>



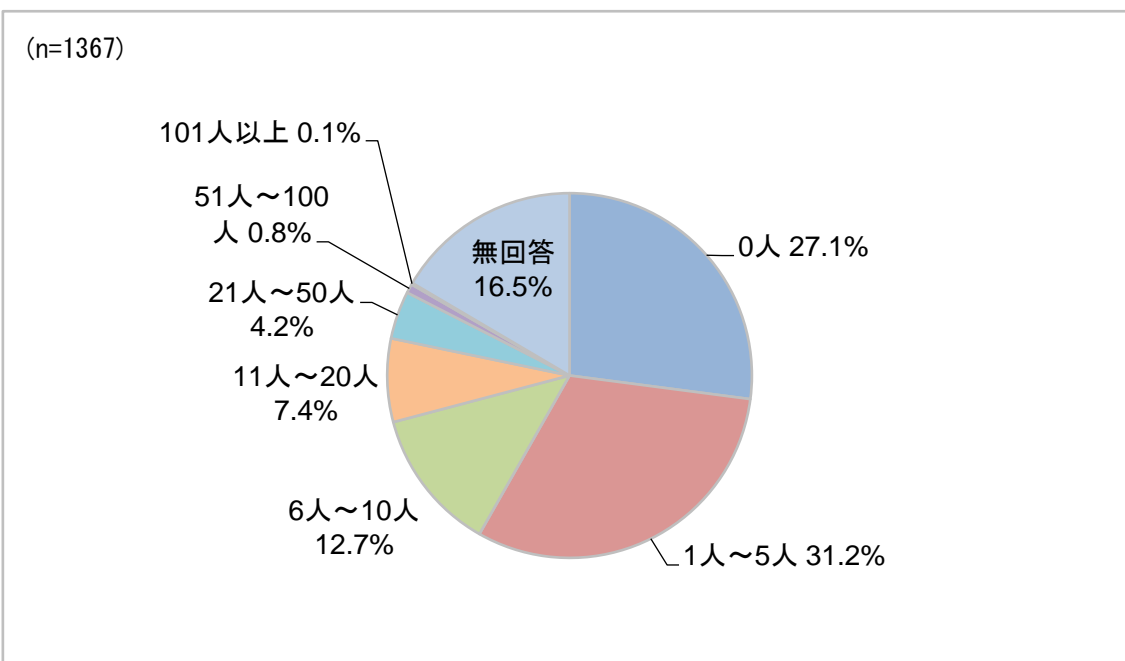
高校生の子ども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「0 人」が最多の 39.4%（n=539）次いで「1～5 人」が 35.8%（n=489）と参加のない子ども食堂が約 4 割。

<大人（18歳以上、高齢者除く）>



大人のこども食堂の開催1回あたりの参加人数（平均は）「1～5人」が最多の23.2%（n=317）次いで「11～20人」が21.2%（n=290）、「6～10人」が18.1%（n=247）であった。

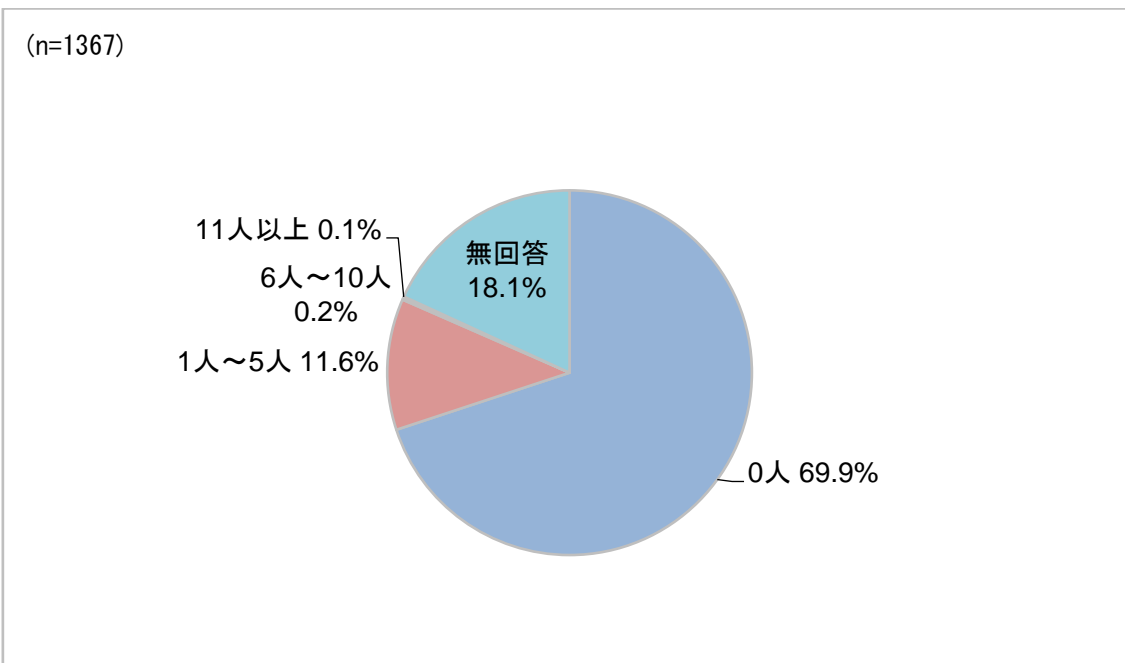
<高齢者（概ね65歳以上）>



高齢者のこども食堂の開催1回あたりの参加人数（平均は）「1～5人」が最多の31.2%（n=426）、次いで「0人」が27.1%（n=370）と0～5人が過半数以上を占めている。

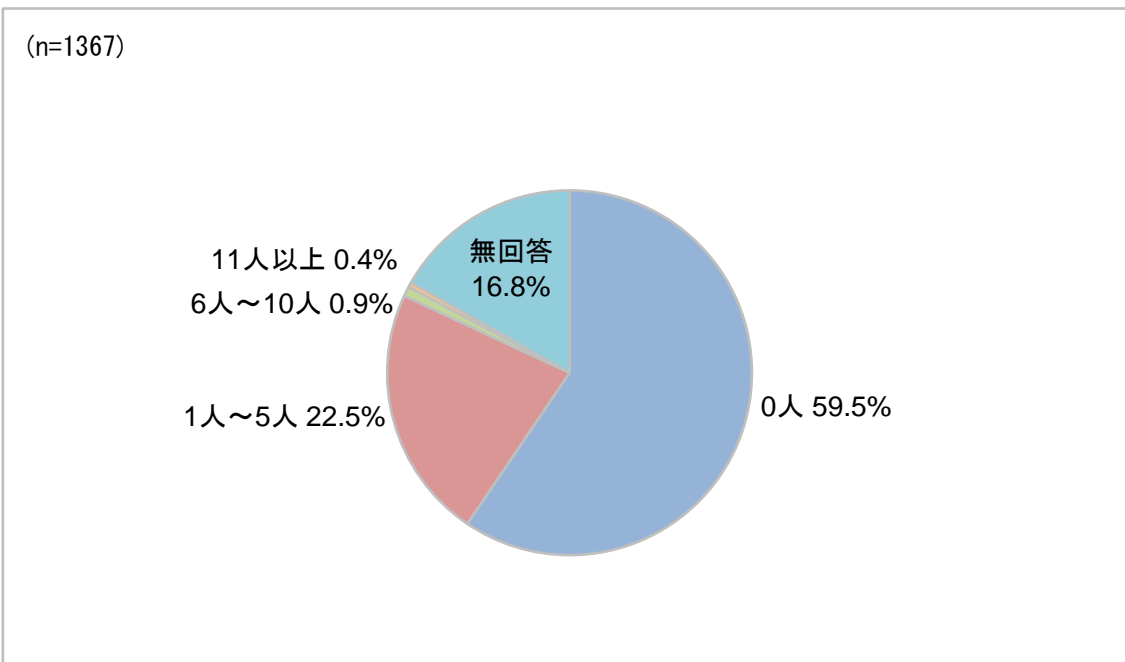
【問 8】特別な配慮を要すると思われる子どもの参加人数（こども食堂の開催 1 回当たりの平均）についてお答えください。※運営スタッフは除きます。

<身体障害を持つ子ども>



身体障害を持つ子どものこども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「0 人」が最多の 69.9%（n=956）と約 7 割をこえ、「1~5 人」との回答は 11.6%（n=159）という結果となった。

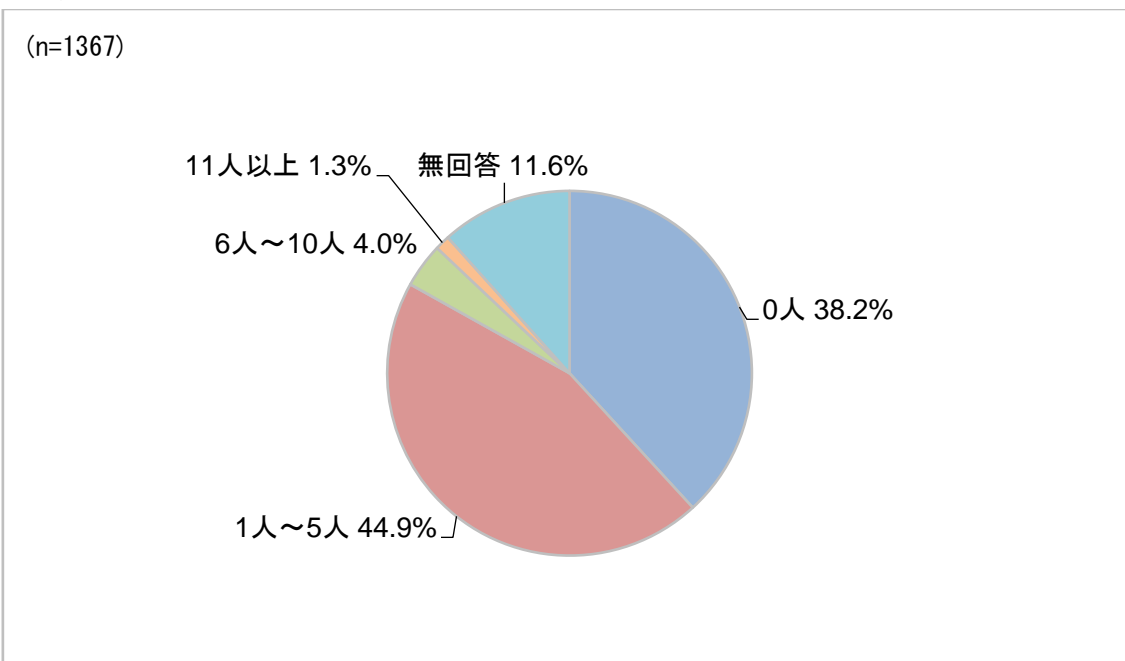
<知的障害を持つ子ども>



知的障害を持つ子どものこども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「0 人」が最多の 59.5%（n=813）、次いで「1~5 人」の 22.5%（n=307）という結果となった。

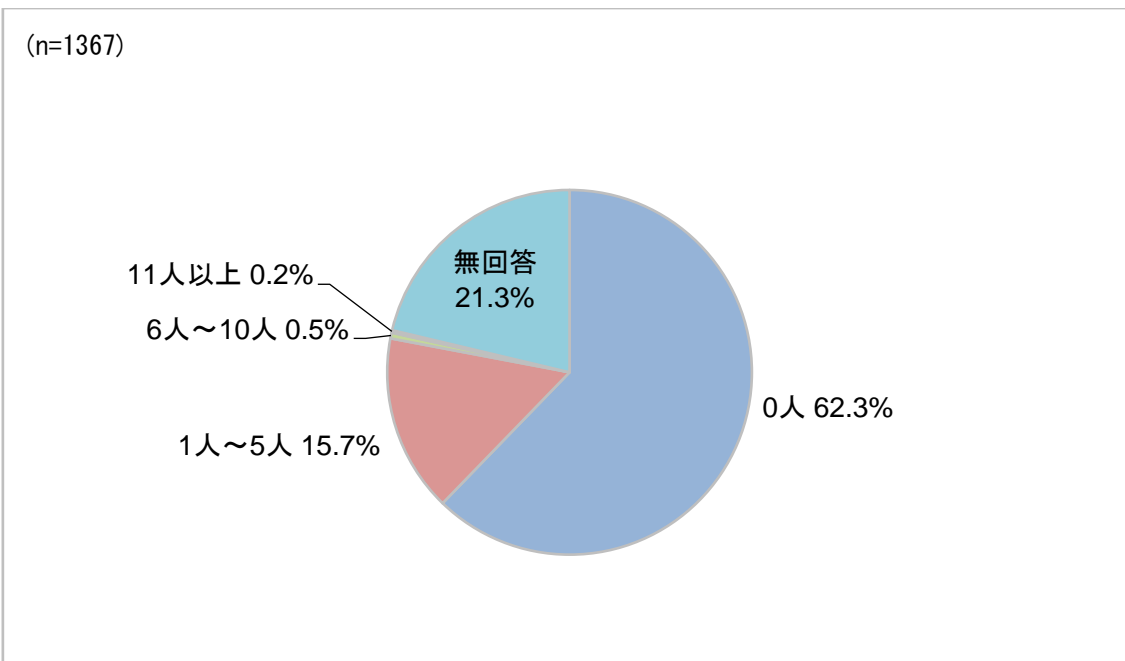


### <発達に障害を持つ子ども>



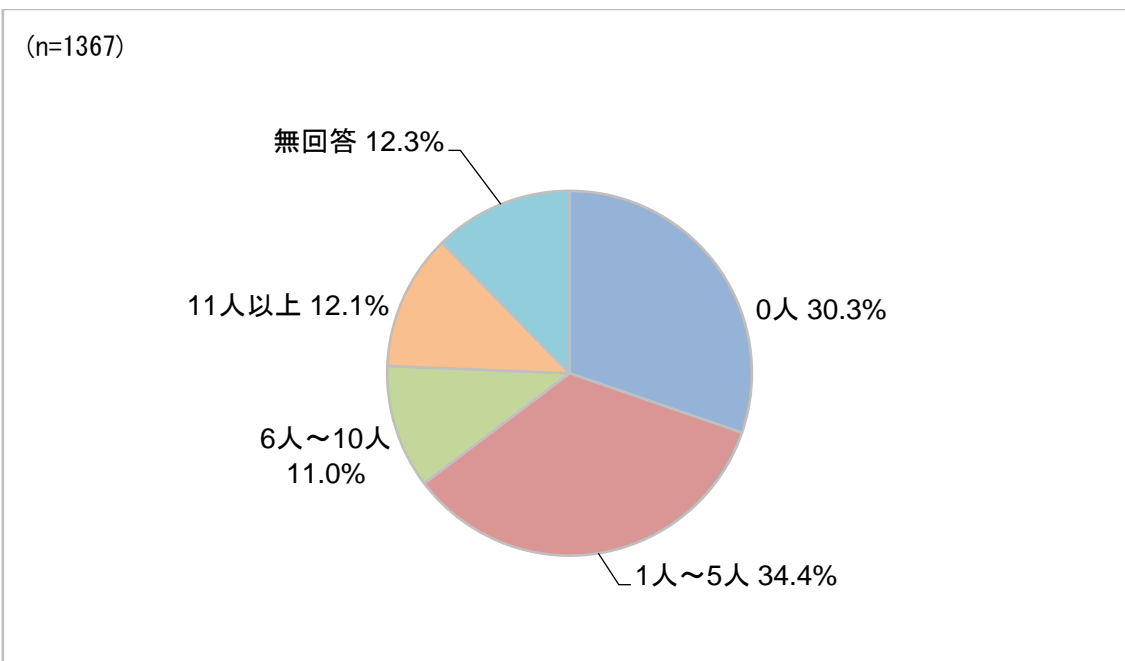
発達に障害を持つ子どものこども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「1~5 人」が最多の 44.9%（n=614）、次いで「0 人」の 38.2%（n=522）という結果となった。

### <心身に病気を持つ子ども>



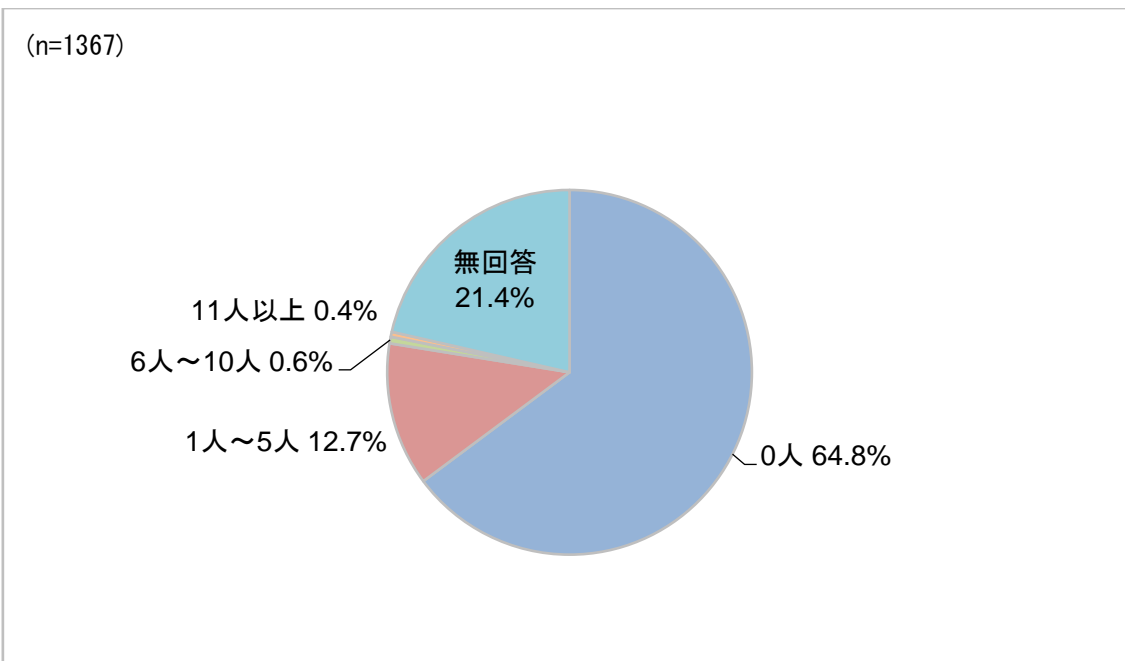
心身に病気を持つ子どものこども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「0 人」が最多の 62.3%（n=851）と 6 割をこえ、「1~5 人」との回答は 15.7%（n=215）という結果となった。

### <経済的に困窮している子ども>



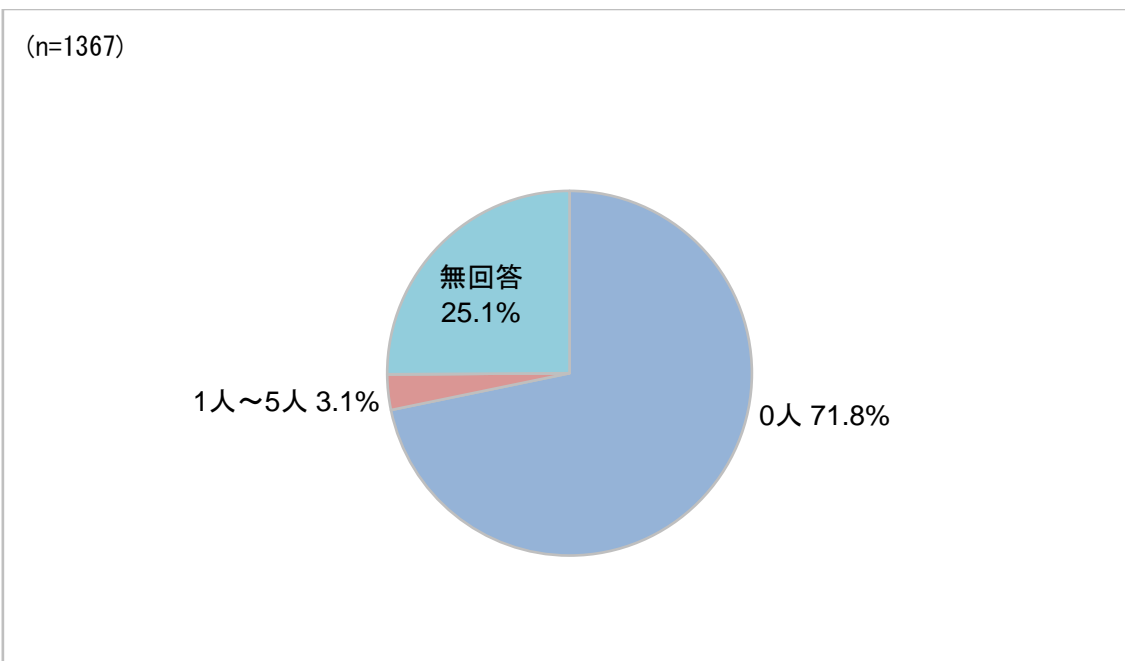
経済的に困窮している子どものこども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「1~5 人」が最多の 34.4%（n=470）、次いで「0 人」の 30.3%（n=414）という結果となった。

### <虐待・暴力を受けている子ども>



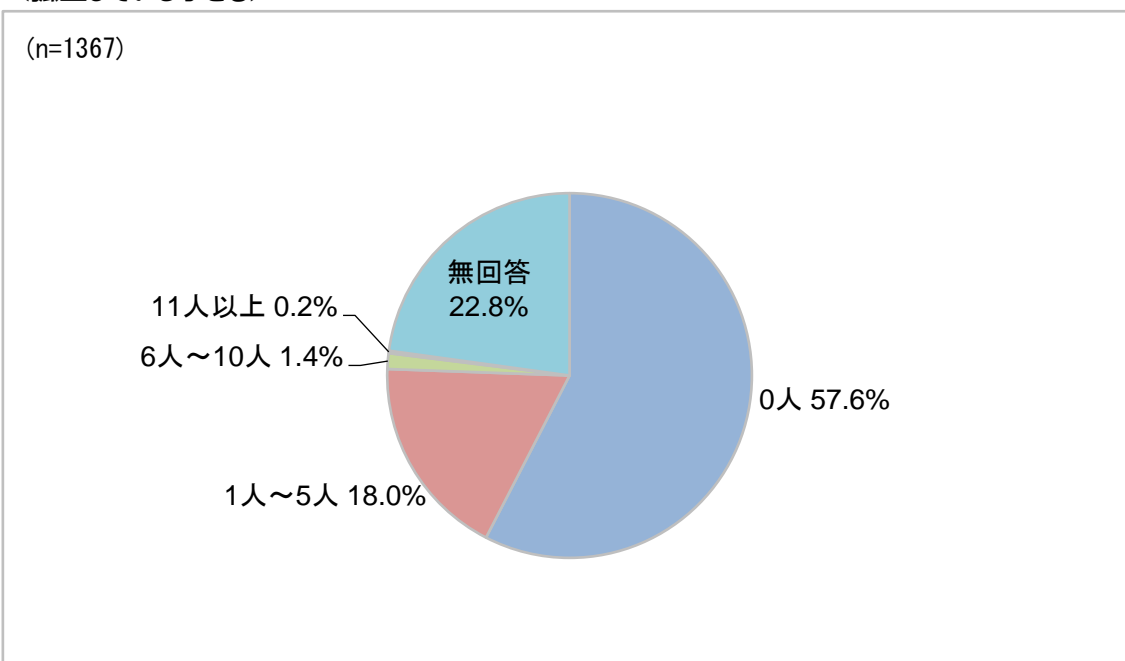
虐待・暴力を受けている子どものこども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「0 人」が最多の 64.8%（n=886）と 6 割をこえ、「1~5 人」との回答は 12.7%（n=174）という結果となった。

### <性的マイノリティの子ども>



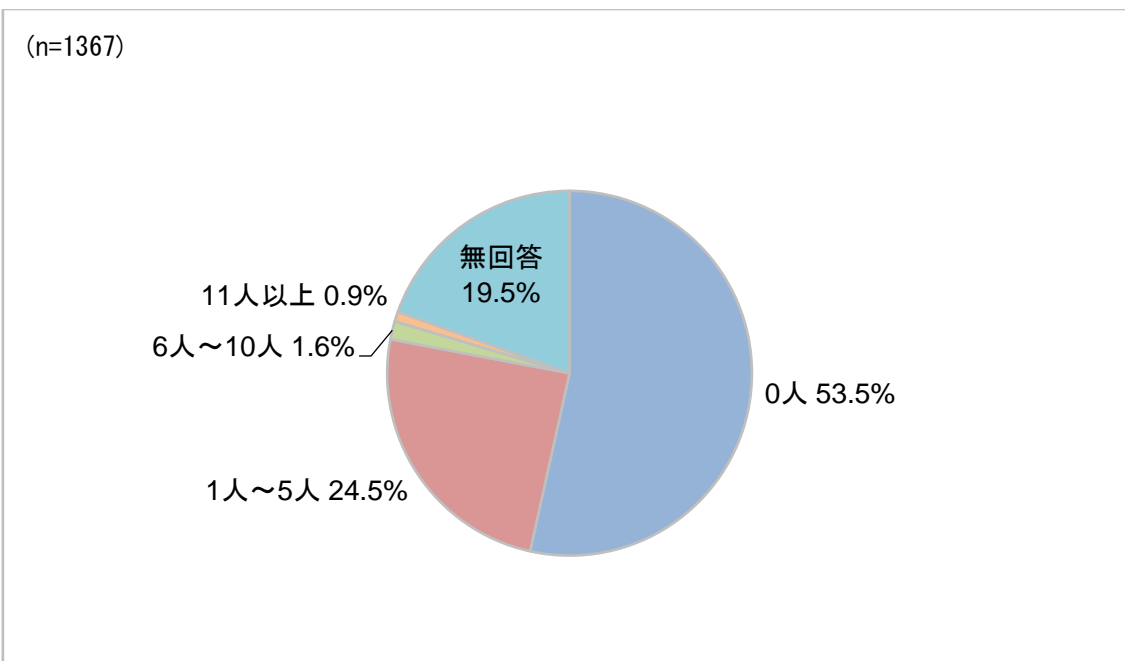
性的マイノリティの子どものごども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「0 人」が最多の 71.8%（n=981）と 7 割をこえ、「1~5 人」との回答は 3.1%（n=43）という結果となった。

### <孤立している子ども>



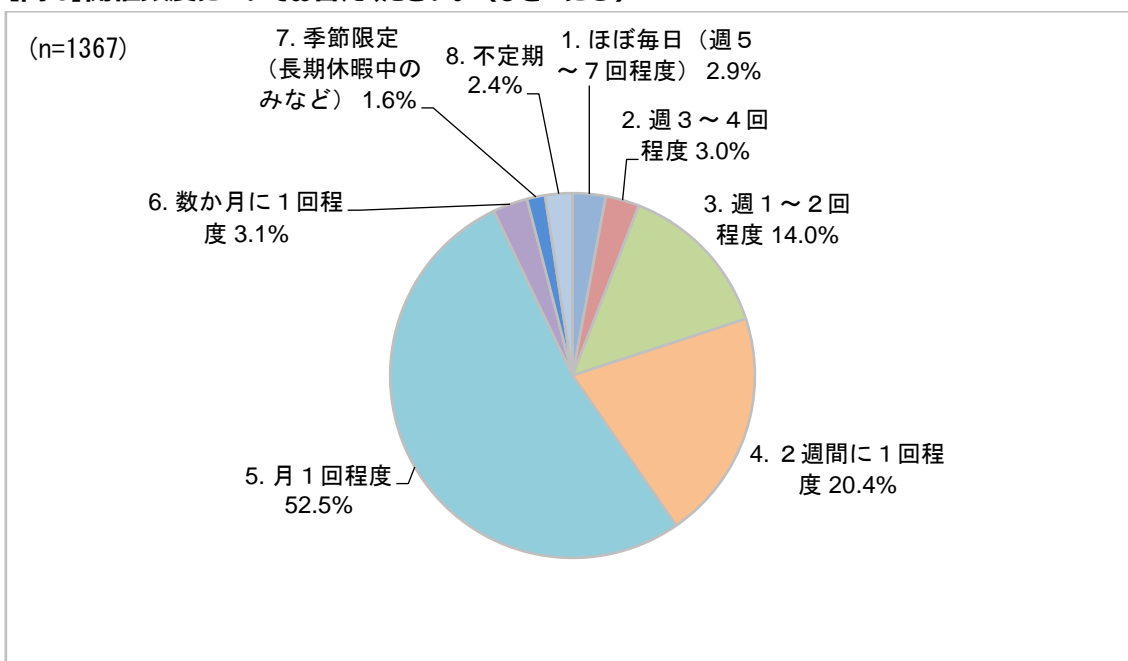
孤立している子どものごども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「0 人」が最多の 57.6%（n=787）、「1~5 人」との回答は 18.0%（n=246）という結果となった。

### <外国にルーツのある子ども>



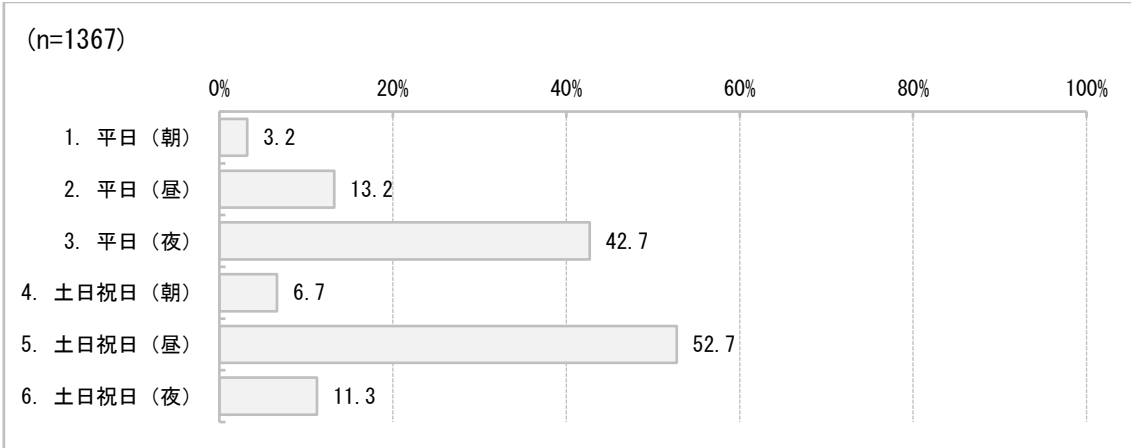
外国にルーツのある子どものこども食堂の開催 1 回あたりの参加人数（平均は）「0 人」が最多の 53.5%（n=731）、次いで「1～5 人」の 24.5%（n=335）という結果となった。

### 【問 9】開催頻度についてお答えください。（ひとつに○）



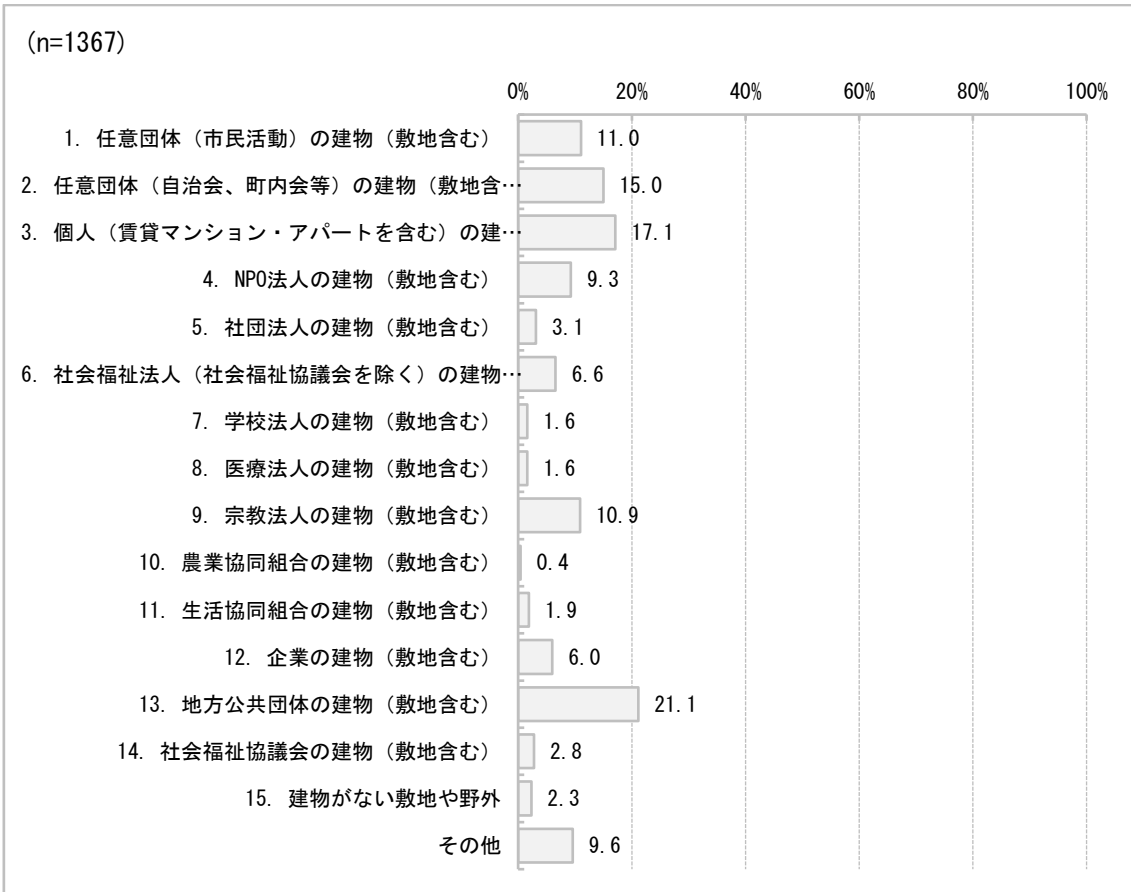
開催頻度については、「月 1 回程度」が 52.5%（n=718）、次いで「2 週間に 1 回程度」20.4%（n=279）、「週 1～2 回程度」14.0%（n=192）という結果となった。

**【問 10】活動する曜日・時間帯についてお答えください。（該当すべてに○）**



活動する曜日・時間帯については、「土日祝日（昼）」が 52.7%（n=721）、次いで「平日（夜）」42.7%（n=584）という結果となった。

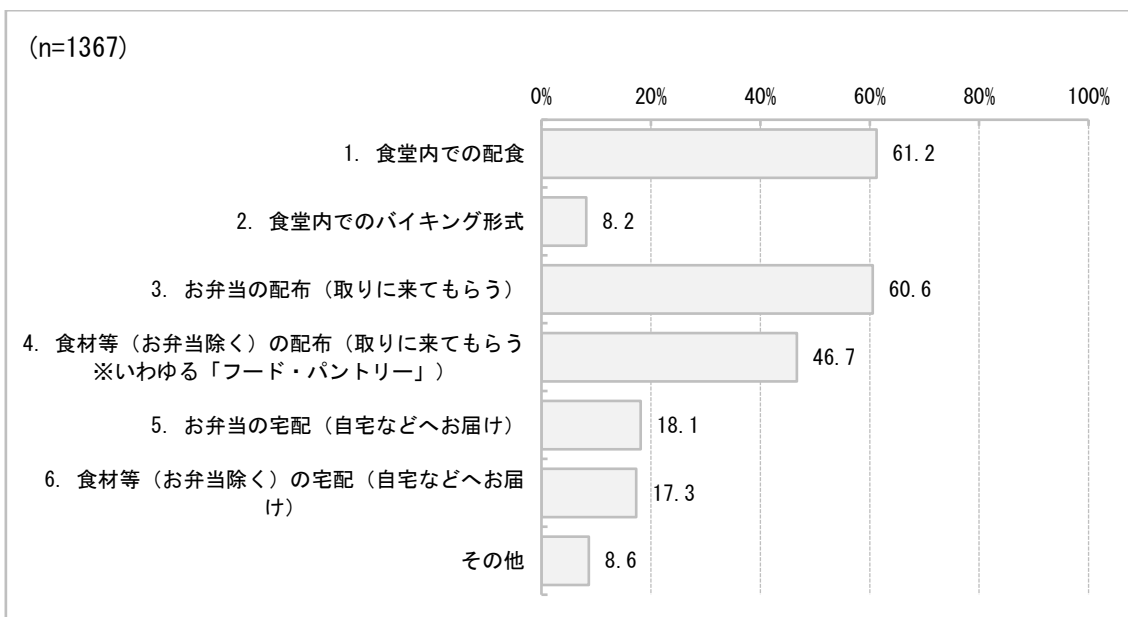
**【問 11】開催場所についてお答えください。（該当すべてに○）**



開催場所については、「地方公共団体の建物（敷地含む）」が 21.1%（n=289）、次いで「個人（賃貸マンション・アパートを含む）の建物（敷地含む）」17.1%（n=234）、「任意団体（自治会・町内会等）の建物（敷地含む）」15.0%（n=205）という結果となった。

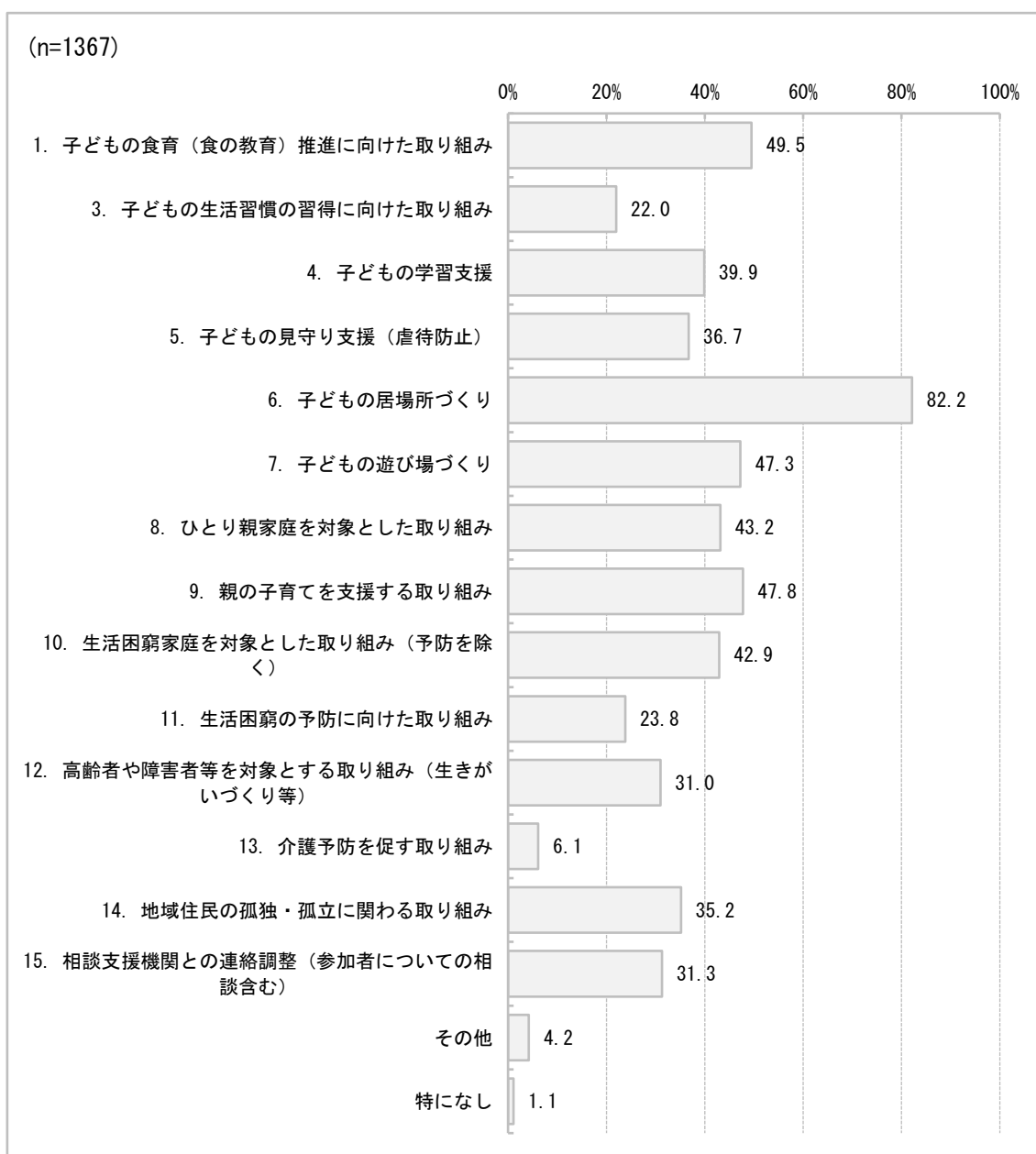
その他としては、「商店街の建物」や「飲食店」などがあげられた。

【問 12】食事の提供方法についてお答えください。（該当すべてに○）



食事の提供方法については、「食堂内での配食」が最多の 61.2%(n=837)、次いで「お弁当の配布（取りに来てもらう）」が 60.6%(n=828)と上位 2 項目が 60%以上となった。3 番目は「食材等（お弁当除く）の配布（取りに来てもらう ※いわゆる「フード・パントリー」）」の 46.7%(n=638)であった。その他としては、「おやつを提供」や「野外での配食」などがあげられた。

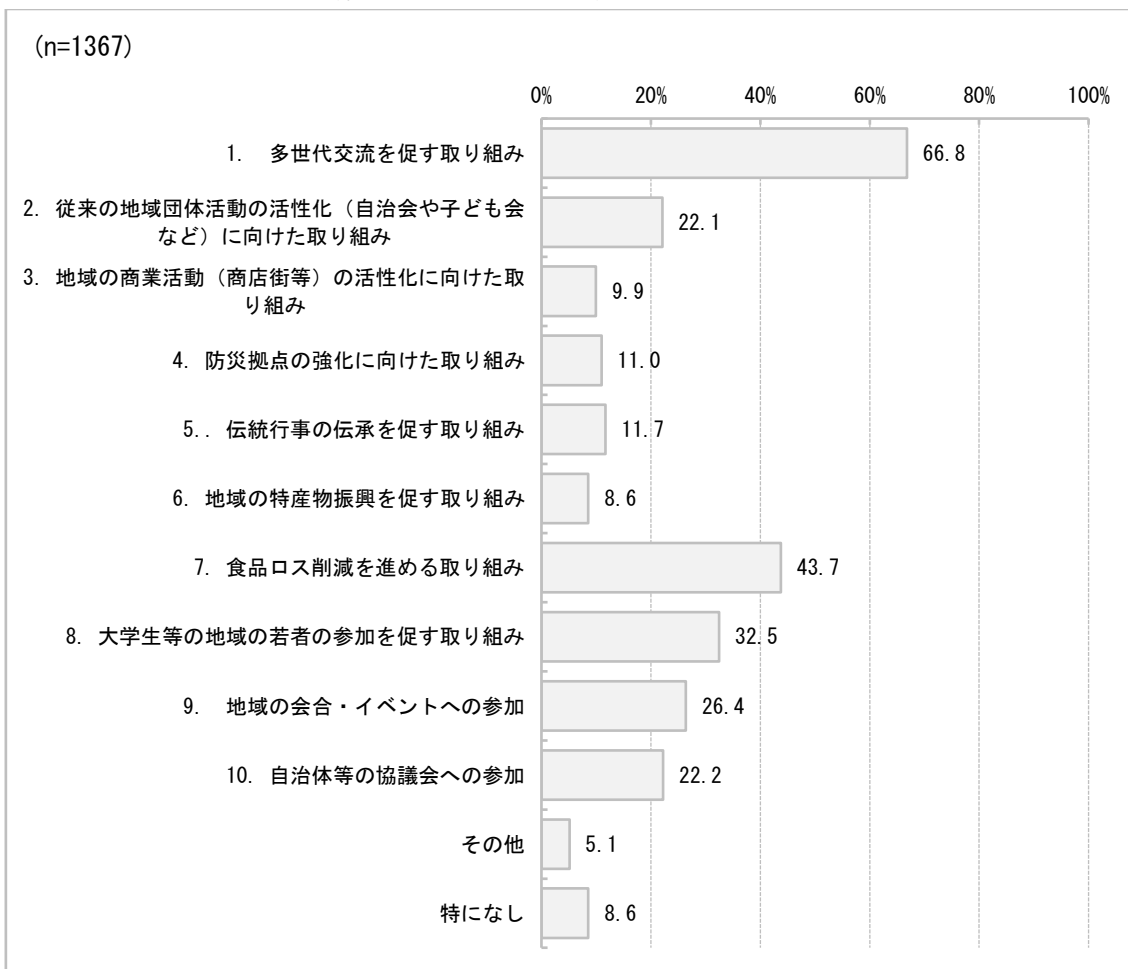
【問 13】実施している活動についてお答えください。（該当すべてに○）



実施している活動については、「子どもの居場所づくり」が最多の 82.2%(n=1123)と 8 割をこえ、次いで「子どもの食育（食の教育）推進に向けた取り組み」が 49.5%(n=677)、3 番目は「親の子育てを支援する取り組み」の 47.8%(n=653)であった。

その他としては「ひとりぐらしの学生支援」「多文化共生」「防災拠点、防災学習」があげられた。

【問 14】実施している地域づくり活動についてお答えください。（該当全てに○）



実施している地域づくり活動について、最も多いのが「多世代交流を促す取り組み」（n=913、66.8%）で、次いで「食品ロス削減を進める取り組み」（n=598、43.7%）、さらに続いて「大学生等の地域の若者の参加を促す取り組み」（n=444、32.5%）となった。

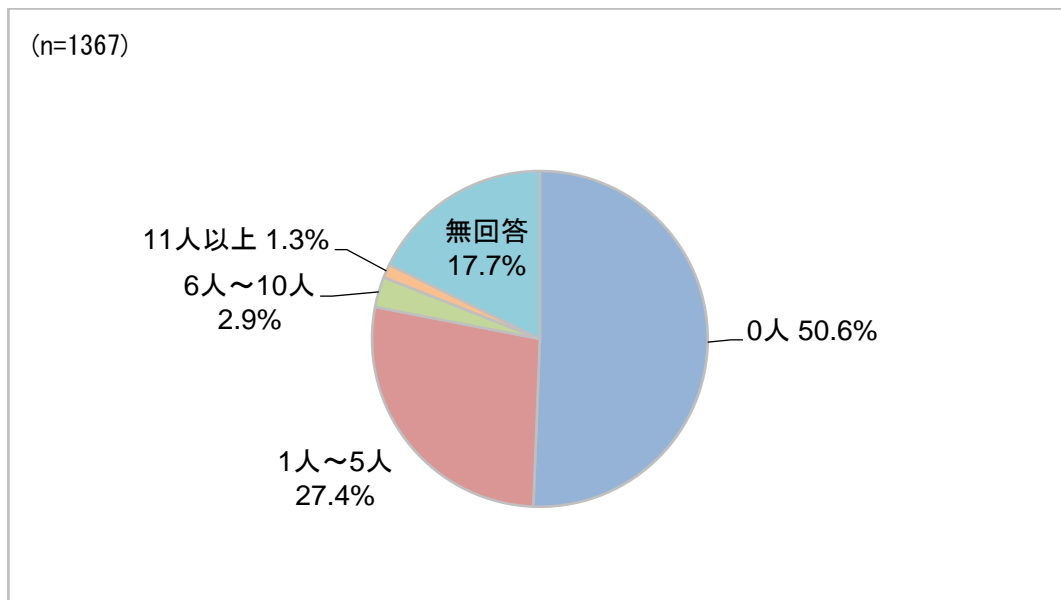
その他では「クリスマスイベントへの招待」、「ボランティア活動」、「野菜収穫体験」、「国際交流」、「清掃活動」、「地域のお祭りの実施」などの記述があった。



【問 15】開催 1 回あたりの運営スタッフの人数（平均）についてお答えください。

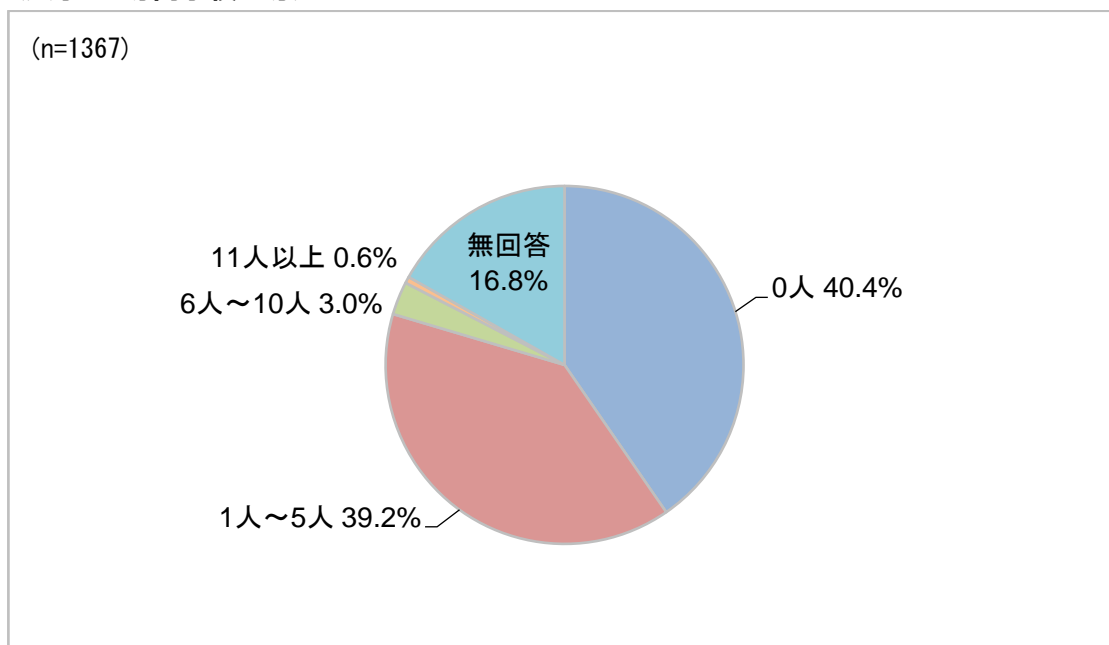
※参加がない場合は「0」と記入

<17 歳以下>



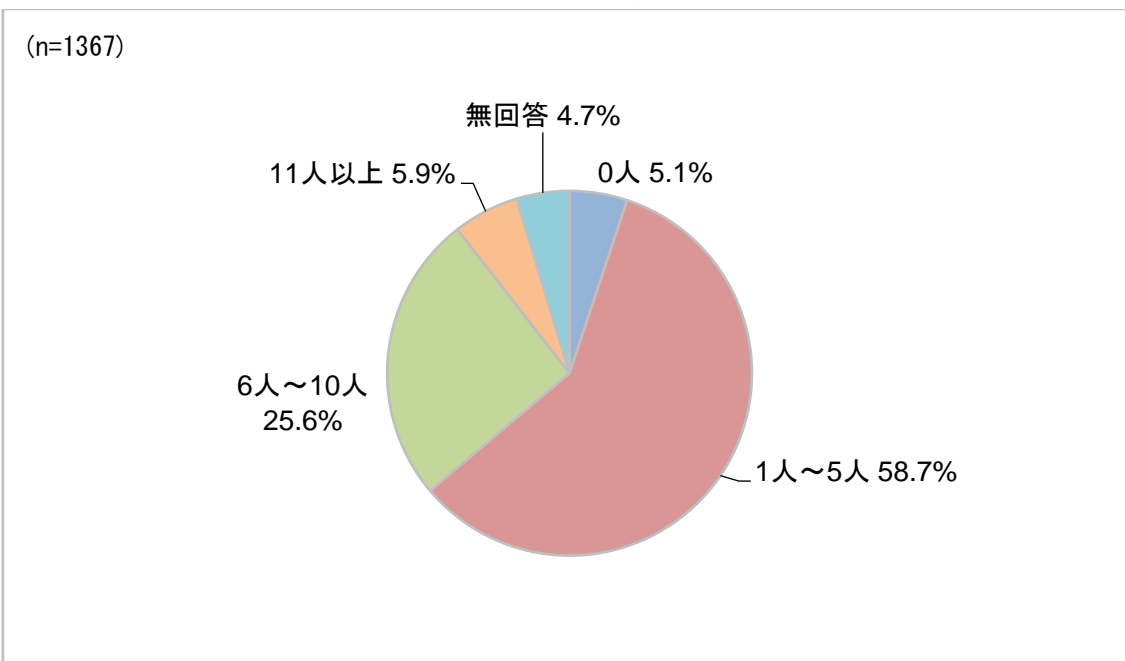
開催 1 回あたりの運営スタッフの人数（平均）について、17 歳以下で最も多いのが「0 人（参加なし）」（n=692、50.6%）で、次いで「1 人～5 人」（n=375、27.4%）、さらに続いて「6 人～10 人」（n=40、2.9%）であった。

<大学生・専門学校生等>



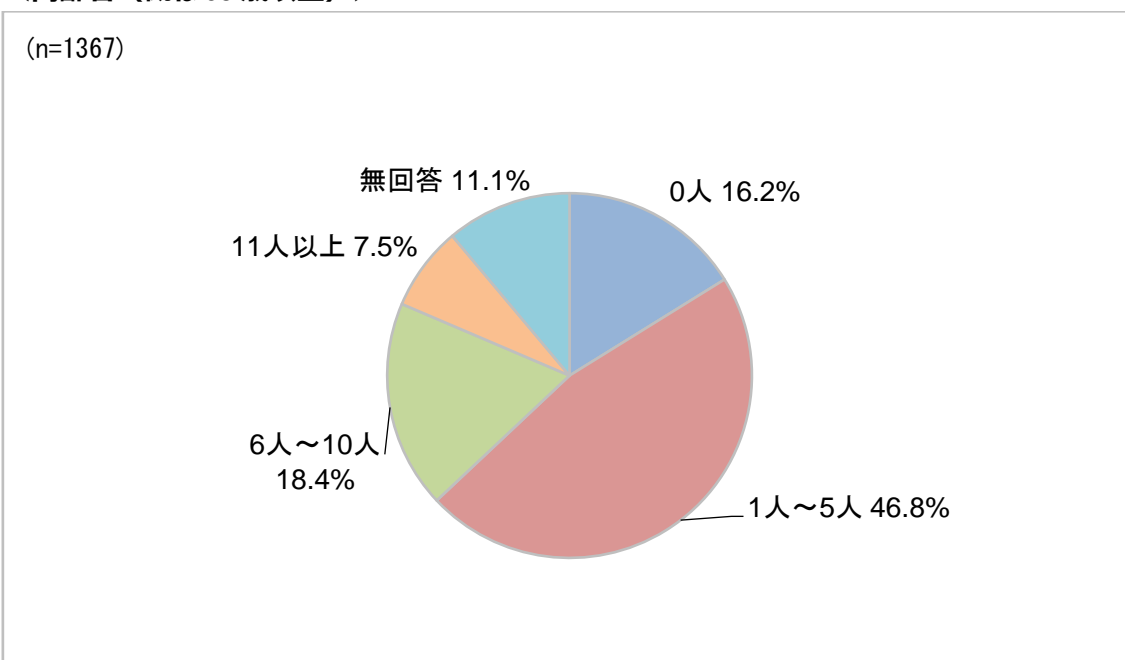
開催 1 回あたりの運営スタッフの人数（平均）について、大学生・専門学校生等で最も多いのが「0 人（参加なし）」（n=552、40.4%）で、次いで「1 人～5 人」（n=536、39.2%）、さらに続いて「6 人～10 人」（n=41、3.0%）であった。

<大人（18歳以上、大学生・専門学校生・高齢者除く）>



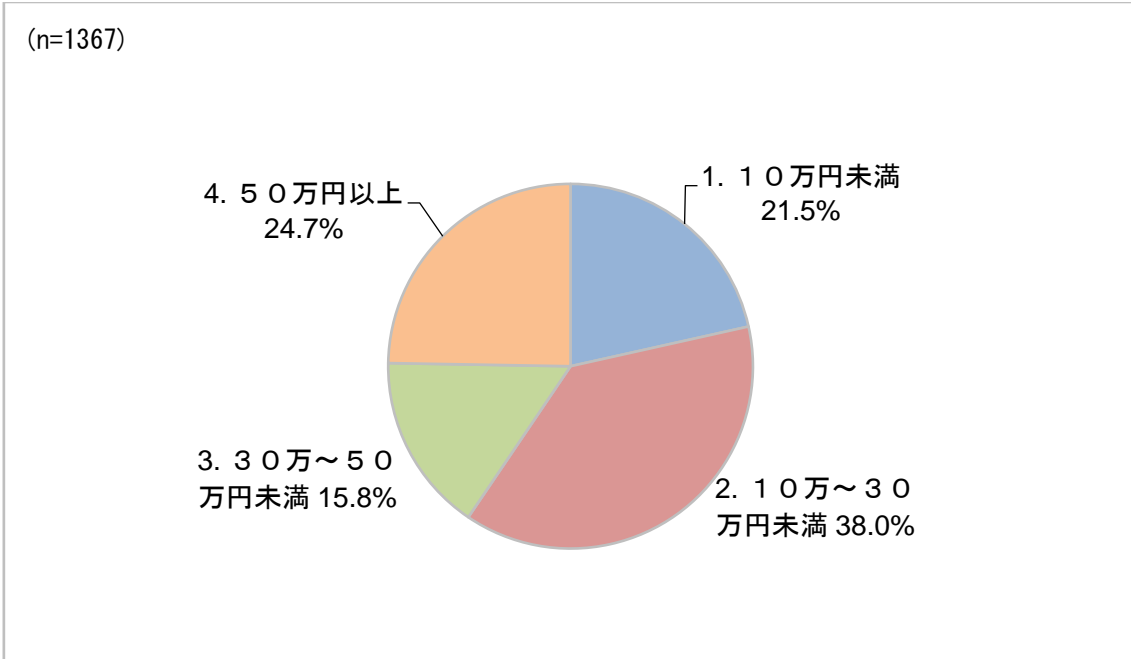
開催1回あたりの運営スタッフの人数（平均）について、大人（18歳以上、大学生・専門学校生・高齢者除く）で最も多いのが「1人～5人」（n=803、58.7%）、次いで「6人～10人」（n=350、25.6%）、さらに続いて「11人以上」（n=80、5.9%）であった。

<高齢者（概ね65歳以上）>



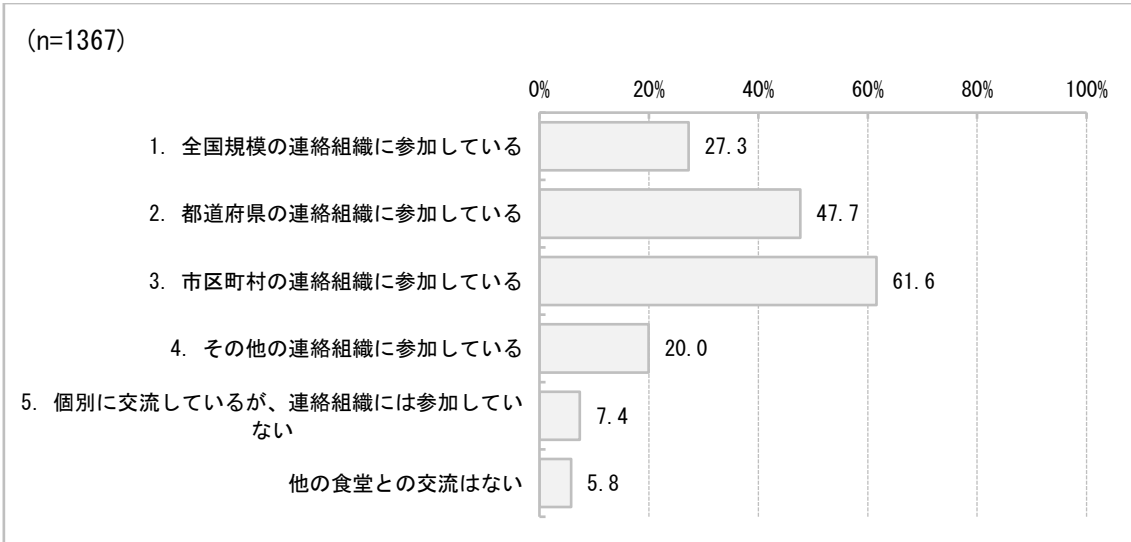
開催1回あたりの運営スタッフの人数（平均）について、高齢者（概ね65歳以上）で最も多いのが「1人～5人」（n=640、46.8%）、次いで「6人～10人」（n=252、18.4%）、さらに続いて「0人（参加なし）」（n=221、16.2%）であった。

**【問 16】年間の運営費についてお答えください。(ひとつに〇)**



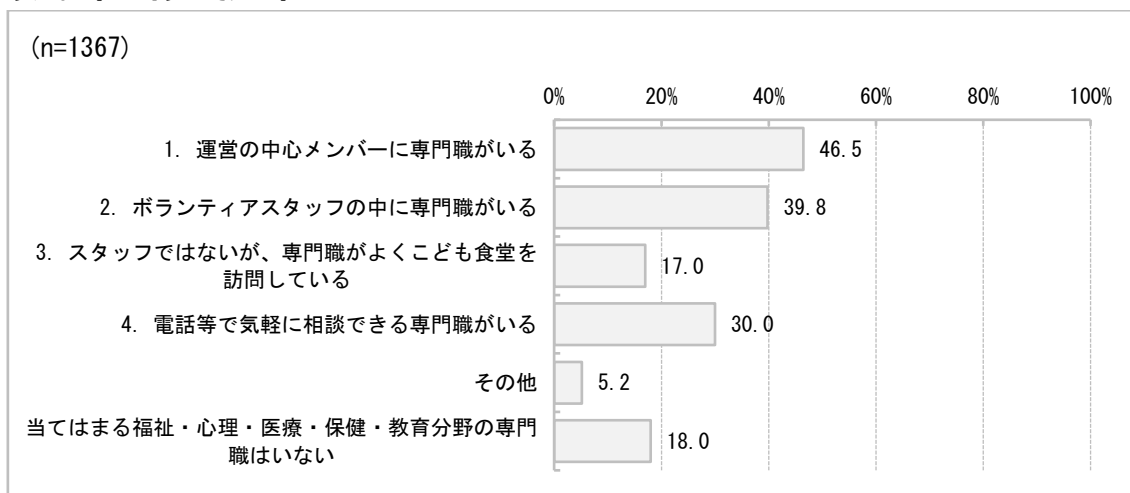
年間の運営費について最も多いのが「10万～30万円未満 (n=519、37.2%)」、次いで「50万円以上 (n=338、24.7%)」、さらに続いて「10万円未満 (n=294、21.5%)」であった。

**【問 17】子ども食堂同士の連携についてお答えください。(該当すべてに〇)**



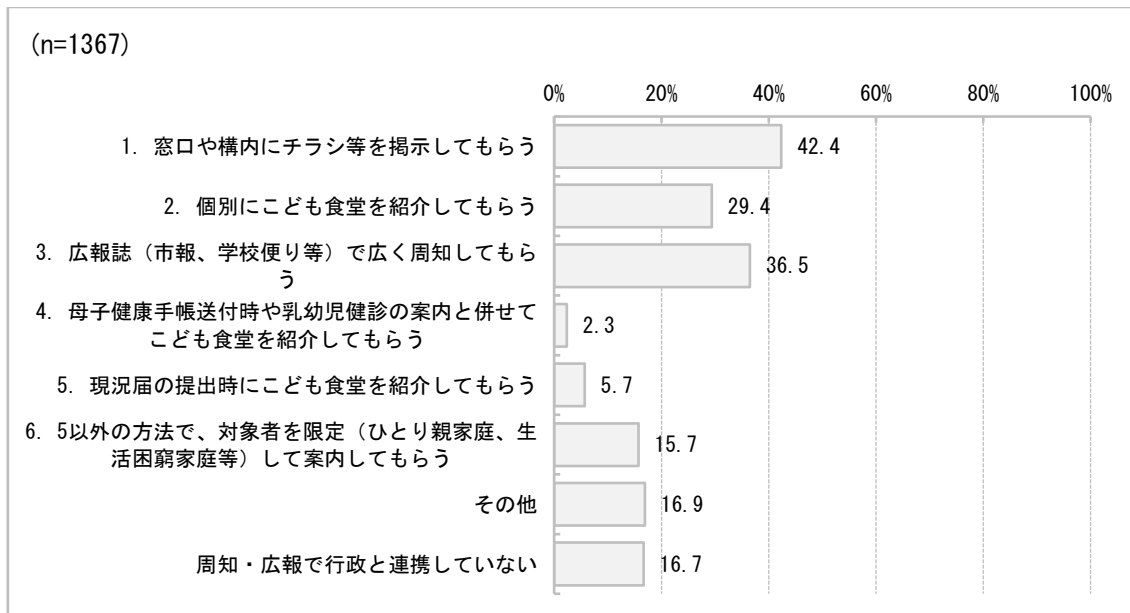
子ども食堂同士の連携について、最も多いのが「市区町村の連絡組織に参加している」(n=842、61.6%)で、次いで「都道府県の連絡組織に参加している」(n=652、47.7%)、さらに続いて「全国の連絡組織に参加している」(n=373、27.3%)であった。

**【問 18】福祉・心理・医療・保健・教育分野の専門職は、子ども食堂の運営にどのように関わっていますか。（該当すべてに○）**



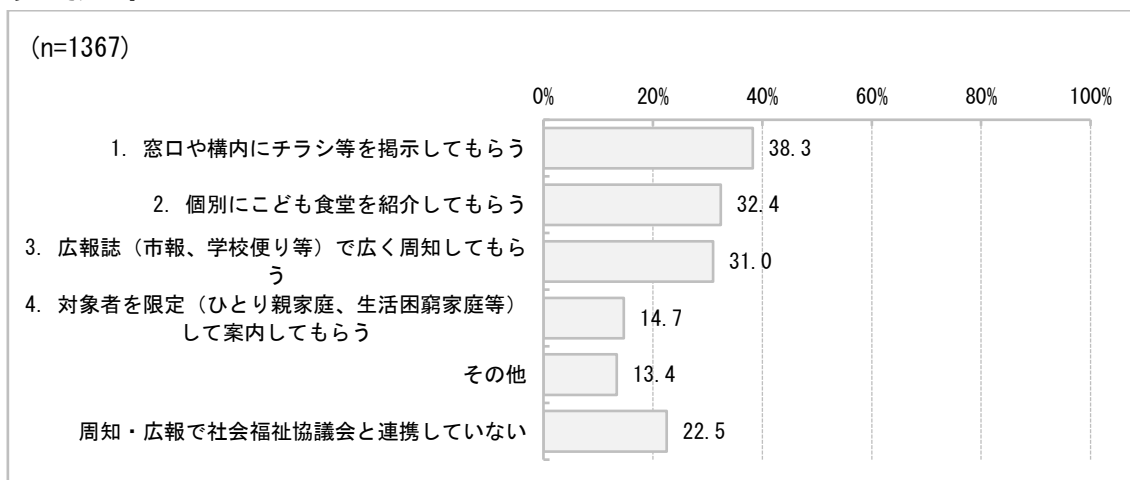
専門職の子ども食堂運営への関りについて、最も多かったのが「運営の中心メンバーに専門職がいる（n=635、46.5%）」、次いで「ボランティアスタッフの中に専門職がいる（n=544、39.8%）」、さらに続いて「電話等で気軽に相談できる専門職がいる（n=410、30.0%）」であった。その他では「役場福祉課とのやり取り」、「心理学の大学教授による、ZOOM カウンセリング」、「生活支援コーディネーターの関り」、「地域包括センターからボランティアに来ていただいている」などの記述があった。

**【問 19】子ども食堂の周知・広報等について、行政とどのように連携していますか。（すべてに○）**



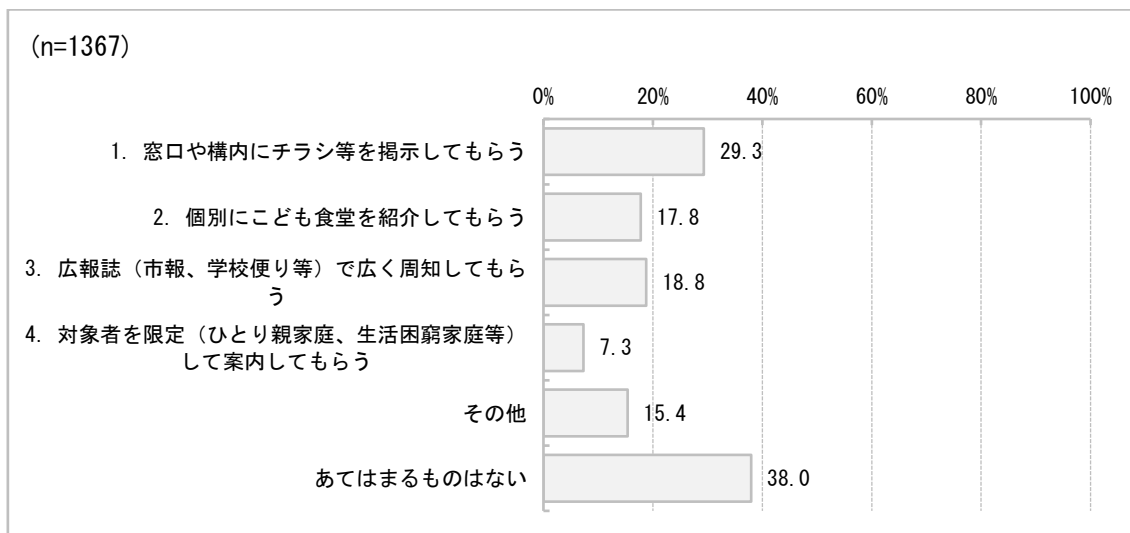
子ども食堂の周知・広報等に関する行政との連携について、最も多いのが「窓口や構内にチラシ等を掲示してもらう」（n=579、42.4%）で、次いで「広報誌（市報、学校便り等）で広く周知してもらう」（n=499、36.5%）、さらに続いて「個別に子ども食堂を紹介してもらう」（n=402、29.4%）であった。その他では「自治会の回覧板」、「行政のHPに記載」、「食堂の公式LINEを作り広げてもらった」、「Instagramで活動の紹介」、「議員から配布してもらっている」、「新聞広告」などの記述があった。

**【問 20】こども食堂の周知・広報等について、社会福祉協議会とどのように連携していますか。（該当すべてに○）**



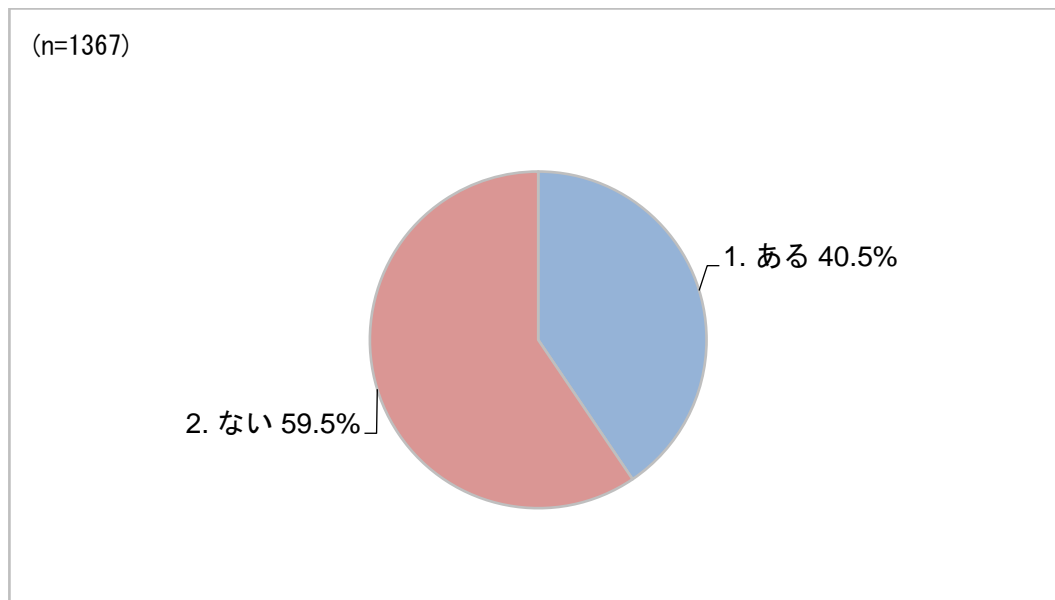
こども食堂の周知・広報等に関する社会福祉協議会との連携について、最も多いのが「窓口や構内にチラシ等を掲示してもらう」（n=523、38.3%）で、次いで「個別にこども食堂を紹介してもらう」（n=443、32.4%）、さらに続いて「広報誌（市報、学校便り等）で広く周知してもらう」（n=424、31.0%）であった。その他では「HPに掲載してもらう」、「チラシ作成」、「ネットワークの事務局をお願いしている」、「区内マップを作成してもらっている」、「社協だより」、「Facebookなどで知らせてくれる」、「ボランティア体験受け入れ」などの記述があった。

**【問 21】こども食堂の周知・広報等について、学校や教育委員会とどのように連携していますか。（該当すべてに○）**



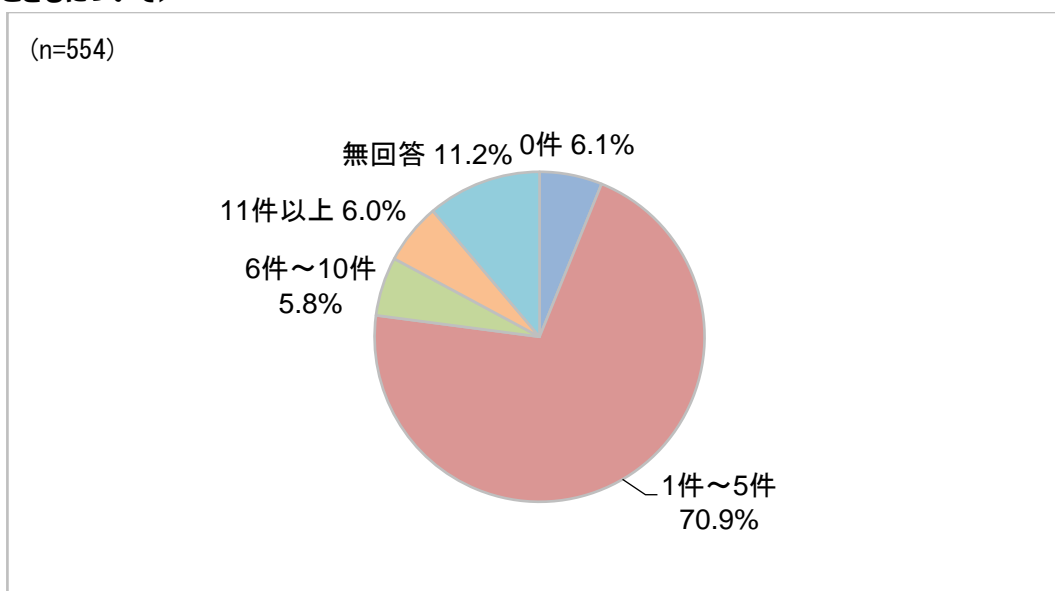
こども食堂の周知・広報等に関する学校や教育委員会との連携について、最も多いのが「あてはまるものがない」（n=519、38.0%）で、次いで「窓口や構内にチラシ等を掲示してもらう」（n=401、29.3%）、さらに続いて「広報誌（市報、学校便り等）で広く周知してもらう」（n=257、18.8%）であった。その他では「スクールソーシャルワーカー等と連携」、「PTAの全戸にチラシを配布してもらう」、「SNSでの案内」、「ポスターを掲示」、「学校のホームページに提示」、「出前授業」などの記述があった。

【問 22】2020 年 4 月～2021 年 3 月の間に、気になる子どもや保護者、家庭等について、ご自身や所属組織がつながりのある専門職に相談したり、状況を話して意見をもらったりした経験はありますか。(1 つに○)



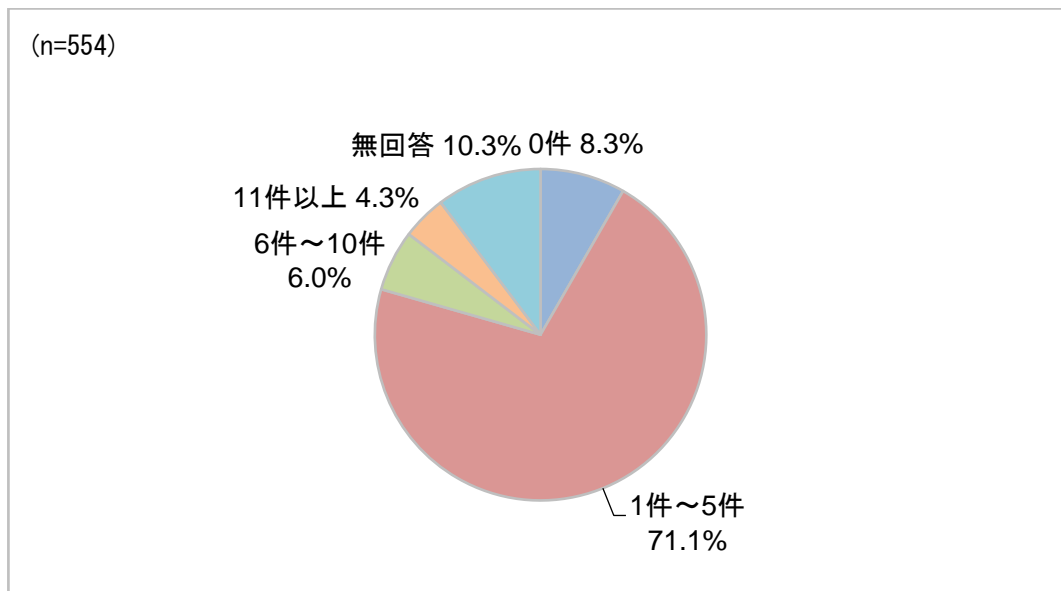
つながりのある専門職への相談や意見をもらう経験について、「ない」が n=813、59.5%、「ある」が n=554、40.5%であった。

【問 23-①】(Q22 で「ある」を選んだ場合) 2020 年 4 月～2021 年 3 月の間に、子どもについて話したケースは何件ありましたか。※Q22 で「ない」を選んだ方は、すべての欄に 0 を記入  
<子どもについて>



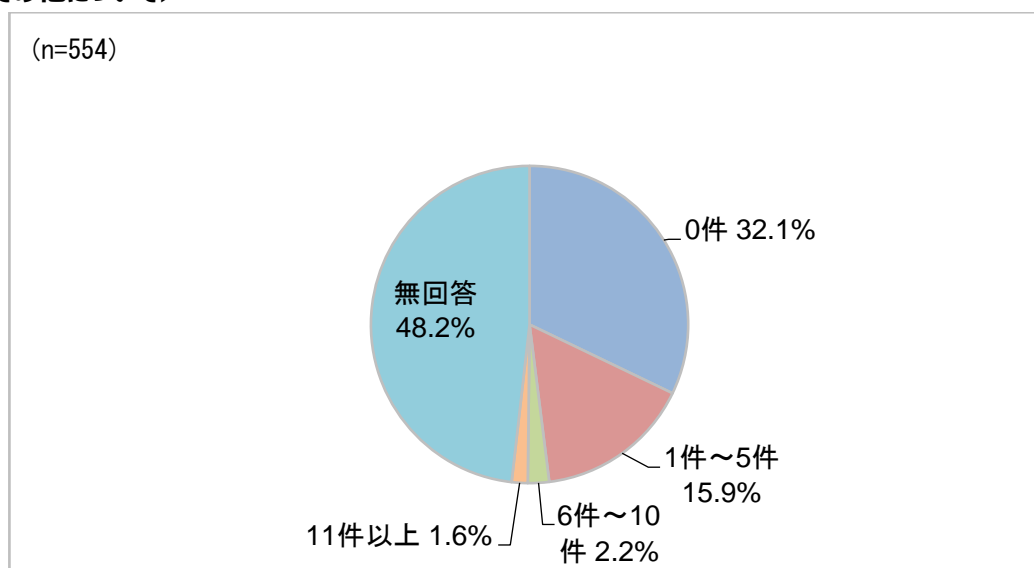
2020 年 4 月～2021 年 3 月の間に、子どもについて専門職と話したケースで最も多い件数は「1 件～5 件 (n=393、70.9%)」、次いで「0 件 (n=34、6.1%)」、「11 件以上 (n=33、6.0%)」であった。

【問 23-②】（Q22で「ある」を選んだ場合）2020年4月～2021年3月の間に、保護者や家庭について話したケースは何件ありましたか。※Q22で「ない」を選んだ方は、すべての欄に0を記入  
 <保護者や家庭について>



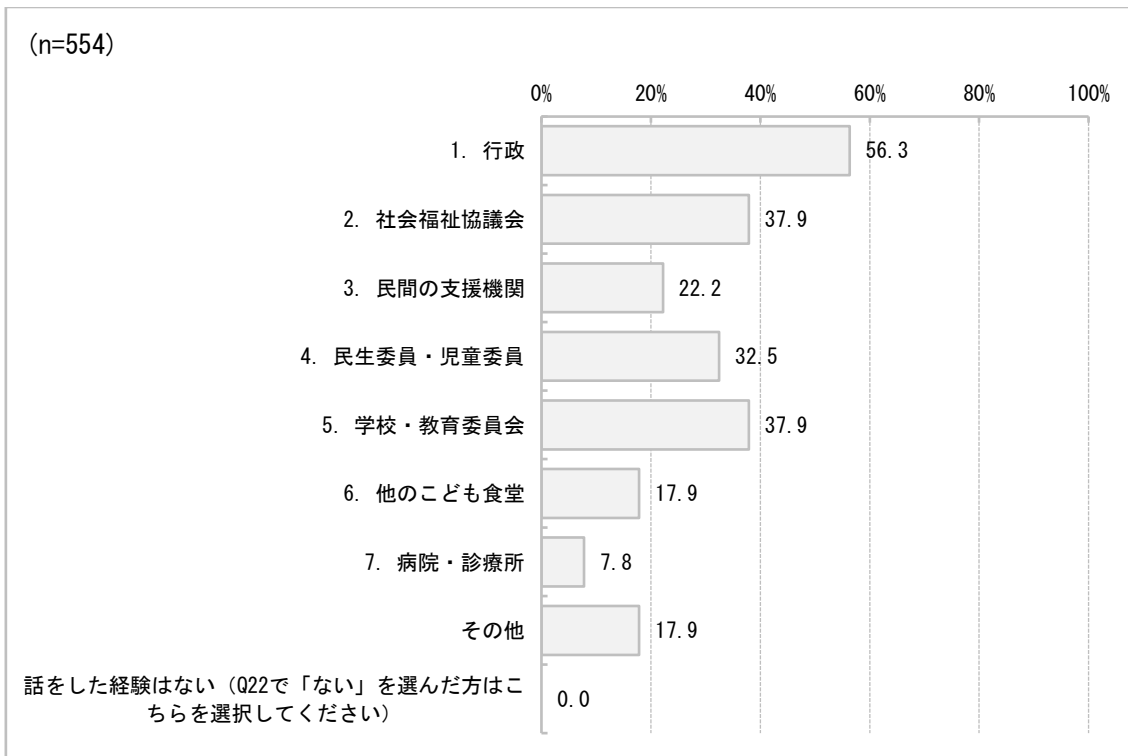
2020年4月～2021年3月の間に、保護者や家庭について専門職と話したケースで最も多い件数は「1件～5件（n=394、71.1%）」、次いで「0件（n=46、8.3%）」、さらに続いて「6件～10件（n=33、6.0%）」であった。

【問 23-③】（Q22で「ある」を選んだ場合）2020年4月～2021年3月の間に、その他の事について話したケースは何件ありましたか。※Q22で「ない」を選んだ方は、すべての欄に0を記入  
 <その他について>



2020年4月～2021年3月の間に、保護者や家庭について専門職と話したケースで最も多い件数は「0件（n=178、32.1%）」、次いで「1件～5件（n=88、15.9%）」、さらに続いて「6件～10件（n=12、2.2%）」であった。

【問 24】Q22で「ある」を選んだ場合どのような組織や専門職に話をしましたか。（該当すべてに○）

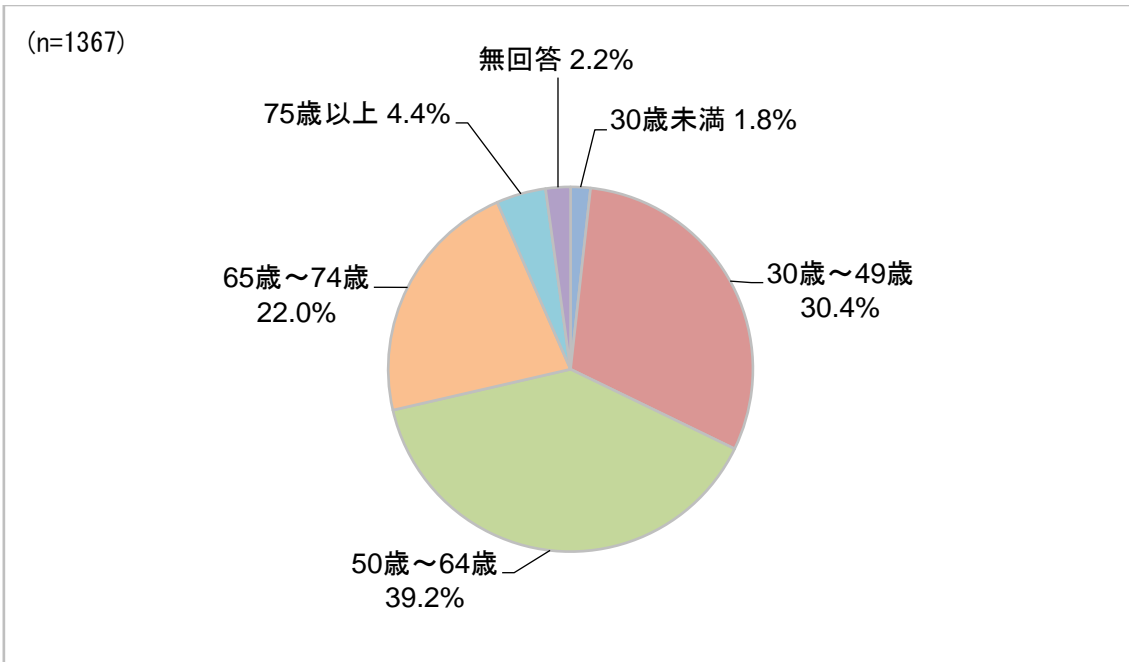


相談した組織や専門職について、最も多いのが「行政」（n=312、56.3%）で、次いで「社会福祉協議会」（n=210、37.9%）、「学校・教育委員会」（n=210、37.9%）であった。

その他では「スクールソーシャルワーカー」、「市議会議員」、「警察」、「弁護士」、「保護司」、「児童相談所」、「公認心理士」、「障がいを持つ子の親の会」、「ブラジル人団体」などの記述があった。

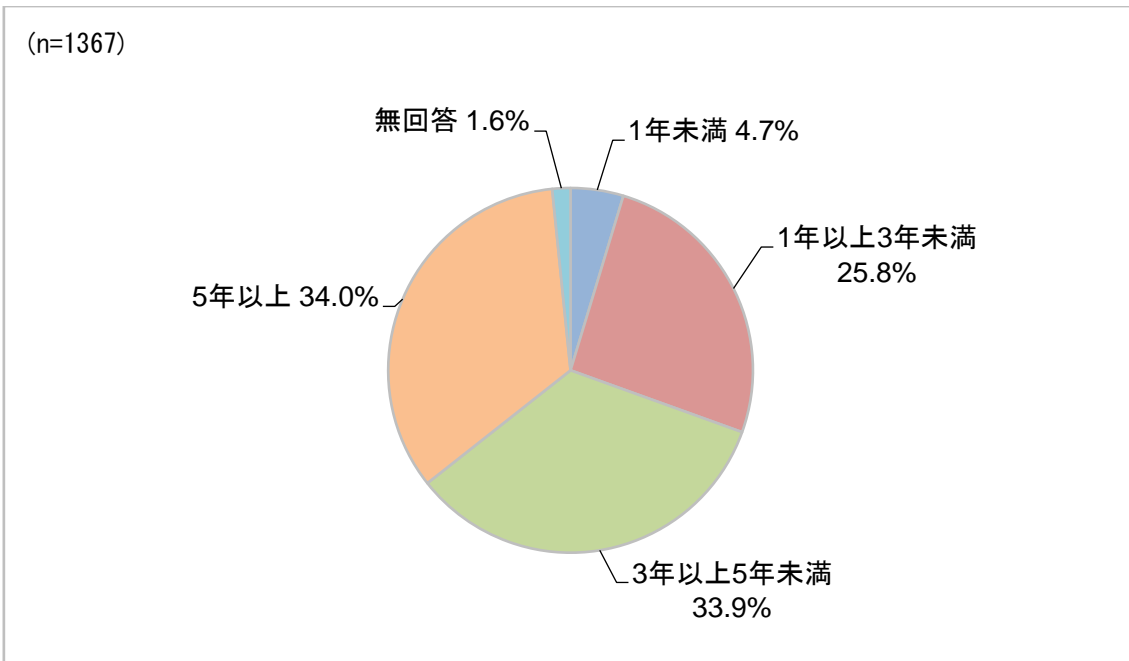


**【問 26-①】ご回答いただいている方の「年齢」を教えてください。**



ご回答いただいた方の「年齢」について、最も多いのが「50歳～64歳（n=536、39.2%）」、次いで「30歳～49歳（n=416、30.4%）」、さらに続いて「65歳～74歳（n=301、22.0%）」であった。

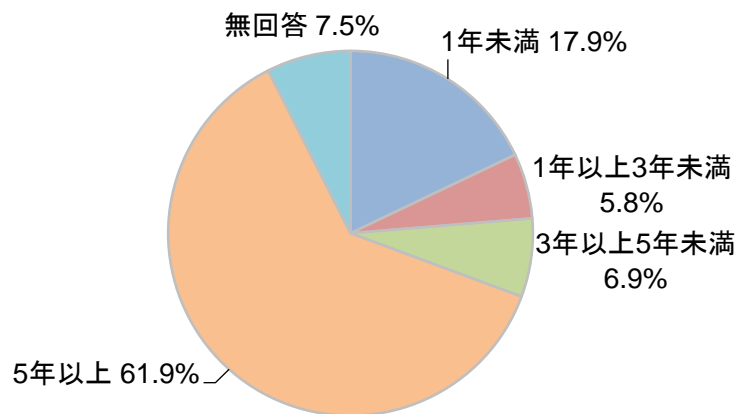
**【問 26-②】ご回答いただいている方の「子ども食堂の活動経験年数」を教えてください。**



ご回答いただいた方の「子ども食堂の活動経験年数」について、最も多いのが「5年以上（n=465、34.0%）」、次いで「3年以上5年未満（n=463、33.9%）」、さらに続いて「1年以上3年未満（n=353、25.8%）」であった。

【問 26-③】ご回答いただいている方の「子ども食堂以外の地域活動等経験年数」を教えてください。

(n=1367)



ご回答いただいた方の「子ども食堂以外の地域活動等経験年数」について、最も多いのが「5年以上 (n=846、61.9%)」、次いで「1年未満 (n=245、17.9%)」、さらに続いて「3年以上5年未満 (n=95、6.9%)」であった。